

第三国集团研修評価調査報告書

—タイ・皮膚病学—

平成元年 1 月

国際協力事業団

研修事業部

研 管

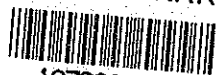
J R

89-1

第三国集团研修評価調査報告書

—タイ・皮膚病学—

JICA LIBRARY



1073902[7]

平成元年 1 月

国際協力事業団

研修事業部



国際協力事業団

19113

序 文

第三国研修とは、社会的、文化的、言語的に共通の基盤をもつ一定の開発途上地域に研修実施国を選定し、そこに当該地域内の途上国からの研修員を受入れ、より現地事情に適合した技術・知識の移転を図り、これにより開発途上国間技術協力の推進に寄与し、将来的には実施国が独自に研修員受入れ事業を実施できるよう協力することを目的としている。昭和49年度、タイのコーラート養蚕研究所訓練センターで初めて実施して以来、年々第三国研修実施協力要請は増え続け、昭和63年度には16ヶ国において46コースを実施するに至っている。

本報告書は、タイ国保健省皮膚病研究所に於て昭和58年度から63年度まで5回にわたり実施された第三国集団研修（皮膚病学）を総合的に評価し、今後の方針を検討するため、昭和63年10月30日から11月6日まで順天堂大学小川秀興教授を団長としてタイに派遣したエバリュエーション調査団の調査結果をとりまとめたものである。

この報告書が関係者各位のさらに深い御理解のもとに、本件第三国研修のより良い今後の展開に資することが出来れば幸いである。

最後に本調査の実施にあたり並々ならぬ御協力を賜ったタイ国政府関係者、在タイ日本大使館、順天堂大学、日本大学、外務省及びその他各位に深い感謝の意を表する次第である。

平成元年1月

理 事 遠 藤 英 夫



ミニッツ署名(63.11.4)

後方左よりブリーヤ国立皮膚病研究所長, 小川調査団長



第5回コース参加研修員との懇談会

1 評価調査団の派遣

1-1. 派遣の経緯と目的

タイ国立皮膚病研究所は、アジア・太平洋地域における皮膚科専門医師の養成のため、従来日本が個別専門家派遣により協力していた専門医育成3か月コースの質的・量的拡充を要請越した。

これを受け、日本側は第三国集団研修の形での協力を実施するため、昭和58年8月10日タイ国立皮膚病研究所とR/Dを署名・交換し、本件10か月間の皮膚病専門医資格習得コースが発足した。

本年度、本コース実施が5回目を迎えるにあたり、これまでの研修実績、日本側の協力実績を踏まえ、研修全般にわたる総括的評価を先方と行なうとともに、研修ニーズの再確認を行ない、継続の適否について協議するため、本エバリュエーション調査団が派遣された。

1-2. 団員構成

| | | |
|---------|--------|-----------------|
| 団長・総括 | 小川 秀 興 | 順天堂大学医学部皮膚科教授 |
| 団員・研修計画 | 鈴木 啓 之 | 日本大学医学部皮膚科助教授 |
| 団員・研修運営 | 岩谷 寛 | 国際協力事業団研修事業部管理課 |

1-3. 調査日程

(1) 派遣期間 昭和63年10月30日から11月6日まで(8日間)

(2) 調査日程

| 月 日 | 行 程 | 内 容 |
|-----------|----------------|---------------------------------------|
| 10月30日(日) | 成田ーバンコク(JL717) | 団内打合せ |
| 31日(月) | | 大使館、JICA表敬・打合せ DTEG、保健省医務局表敬・協議 |
| 11月 1日(火) | | 国立皮膚病研究所表敬 評価協議 |
| 2日(水) | | 研究所内視察 評価協議 |
| 3日(木) | | 次年度計画打合せ・R/D案作成 第5回コース参加研修員からヒアリング |

11月4日(金) ミニッツ署名
JICA・大使館へ報告

5日(土) 資料収集・整理

バンコク

6日(日) 成田(JL718)

1-4. 主要面談者

(1) タイ側

| | |
|------------------------------|----------|
| Dr. Preya Kullavanijaya | 皮膚病研究所長 |
| Dr. Pimonpun Gritiyarangsarn | 皮膚病研究所 |
| Dr. Harn Wongwaisayawan | " |
| Dr. Piti Palangwachira | " |
| Mr. Vichiea Tavannarak | " |
| Dr. Suchint Phalakornkule | 保健省医務局長 |
| Mr. Wanchai Sirirattna | DTEC局長 |
| Ms. Chantana | " タイ援助課長 |

(2) 日本側

| | |
|------|----------------|
| 阿部知之 | 在タイ日本大使館参事官 |
| 岩野正夫 | " 一等書記官 |
| 斉藤勉 | JICAタイ事務所所長 |
| 桜田幸久 | " 次長 |
| 岩柳信也 | 人口家族計画コーディネーター |

2. 調査結果要約

本件第三国集団研修（皮膚病学）は、昭和58年8月にタイ国保健省と署名・交換したR/Dに基づき、国立皮膚病研究所において、アジア、太平洋地域における皮膚科専門医の養成コースとして開始された。

本年度、本コース実施が5回目を迎えるにあたり、研修全般にわたる総合的評価を行い、今後の方針についてタイ側と協議するため、昭和63年10月30日より11月6日まで、順天堂大学皮膚科小川秀興教授を団長とする評価調査団を派遣した。

毎回コース終了時に実施する研修員へのアンケート、今回まとめて実施した帰国済み研修員に対するクエスチョネア並びに第5回コースの研修員へのヒアリング調査の分析結果によると、参加研修員は初期の目標をほぼ達成し、帰国後も皮膚科専門医あるいは指導医として研修成果を十分に活用していると判断された。

実施機関のスタッフも延べ5人へのほる日本での研修を経て中堅スタッフとして成長し本研修の運営に不可欠な存在となっている。

日・タイ双方は、これらの成果と、同分野におけるアジア・太平洋地域での潜在的ニーズが依然高いことを勘案すると、本第三国研修を今後も継続実施することの意義を確認した。

なお、今後継続にあたっては、最近の地域のニーズ及び医学の進歩状況を考えるに①エイズを含む性行為感染症②プライマリーヘルスケア③細胞および器官培養に関するカリキュラムの補強追加が必要という点で双方は合意し、既にタイ側のスタッフが充実してきた分野におけるタイ側の一層の自助努力と共に、上記の新分野においては専門家派遣及びカウンターパート受け入れを通じた日本の協力が必要である。

上記の評価結果と今後の実施案について日・タイ共同でミニッツ及びR/Dのドラフト（ミニッツに別添）を作成し、先方国立皮膚病研究所ブリーヤ所長と我方小川秀興調査団長は昭和63年11月4日これに署名・交換した。

3. 研修概要と実績

3-1. 経緯

本件第三国研修の実施機関であるタイ国立皮膚病研究所は、1972年、国連WHO等の援助のもとにアジア、太平洋地域の皮膚科分野の中核的研究、教育、診療機関たることを目的に設立された。同研究所では、1976年より、技術経済協力局（DTEC）及び厚生省医務局の共催の下、アジア・太平洋地域諸国の皮膚科専門医の育成を目的に、3カ月間の国際皮膚科学研修コースを開催していた。この国際研修コースは1983年までの8年間続けられ、英、米の他、日本からも技術協力が行われ、順天堂大学の小川秀興教授が5回にわたり短期専門家として派遣されていた。

1982年8月、この国際研修コースでの講演から帰国した小川教授よりJICAに対し、本件研修を拡充し、第三国研修の一環として日本が協力してはどうか、との提案がなされた。また、同年9月、在外機関長会議のため帰国した河西バンコク事務所長よりも同様の要請が出された。

これを受けて、1983年3月、事前調査団が派遣され、10カ月のDIPLOMAコースとしての第三国集団研修（皮膚病）に係るフレームワークにつきタイ側と協議・策定し、同年8月R/Dが締結された。

本研修コースは、1984年3月に第1回コースを開始して以来、本年度のコースで5回目を迎えるに致している。

3-2. 研修の目的及び到達目標

本コースは以下のことを目的としている。

- (1) 若手の皮膚科医に一般的な皮膚病に対する理解を深めさせ、それら疾患がかかえる問題の追求、診断へのアプローチ、そしてそれらの治療などを可能ならしめること。
- (2) 皮膚病学研究に関する適切な手法の修得及びその応用について手ほどきすること。
- (3) 基礎皮膚科学及び臨床的皮膚病学の修得を必要とする皮膚科の専門医を目指す医師に対し必要な訓練を実施すること。
- (4) 有益な科学的知識とその応用方法の習得を促す場を与え、また皮膚病分野の研究や学問やすべての学習作業を推進すること。
- (5) アジア・太平洋地域諸国の医師間の良好な関係を保つこと。

3-3. 研修計画及び実績

(1) 期間・時期

第1回：1984年3月26日～1985年1月25日

第2回：1985年3月25日～1986年1月24日

第3回：1986年4月 7日～1987年2月 5日

第4回：1987年4月 6日～1988年2月 5日

*第5回：1988年4月 4日～1989年2月 3日

(*実施中)

(2) 割当国及び定員

①定員：周辺国14人，実施国7人

合計21人

②割当国

バングラデシュ，ブータン，ビルマ，中国，インド，インドネシア，韓国，マレーシア，
モルディブ，パキスタン，フィリピン，シンガポール，スリ・ランカ，ブルネイ，
フィジー，パプア，ニューギニア

(計16カ国)

(3) 研修カリキュラム

①カリキュラム (第5回コースG I より抜粋)

1. Lectures

1.1 Introduction to dermatology

1.2 Bacteriology

1.3 Clinical research

1.4 Cosmetic dermatology

1.5 Connective tissue diseases

1.6 Disease of hair

1.7 Disease of nails

1.8 Dermatitis and eczema

1.9 Erythema group

1.10 Geriatric dermatology

1.11 Genetics

1.12 Genodermatosis

1.13 Histopathology & electron microscope

1.14 Immunology

1.15 Leprosy

1.16 Mycology

- 1.17 Parasitology & Arthropods
- 1.18 Pharmacology
- 1.19 Papulosquamous eruption
- 1.20 Pigmentation
- 1.21 Pediatric dermatology
- 1.22 Photobiology
- 1.23 Skin signs in systemic disease
- 1.24 Tumors
- 1.25 Virology
- 1.26 Venereal diseases
- 1.27 Vesiculobullous eruption

2. Clinical dermatology

- 2.1 Clinical demonstration
- 2.2 O.P.D.
- 2.3 I.P.D. and Ward round
- 2.4 Symposium
- 2.5 Clinico pathological conference
- 2.6 Journal club
- 2.7 Subspecialty clinics
 - 2.7.1 Immunology clinic
 - 2.7.2 Contact clinic
 - 2.7.3 Mycology clinic
 - 2.7.4 Leprosy clinic
 - 2.7.5 Photobiology clinic

3. Field trip

- 3.1 Nakhon Ratchasima Khon Kaen provinces
- 3.2 Chiang Mai province
- 3.3 Japan (If it is agreed upon)

4. Subspecialties

- 4.1 Mycology
- 4.2 Dermatopathology
- 4.3 Immunology
- 4.4 Clinical research
- 4.5 Photobiology

②研修日程

毎回10ヵ月間、原則として毎週月曜から金曜まで、午前3時間、午後2時間、週25時間、トータルで講義を1025時間(第4回の場合)実施している。

③講師

全講義中、日本人専門家が約300時間、タイ人外部講師が約150時間、皮膚病研究所の講師がその他を担当している。

昭和63年度派遣専門家一覧

| 氏名 | 派遣期間 | 所属先 |
|--------|-------------------------|---------|
| 小川 秀興* | 63. 4. 3 - 63. 4. 16 | 順天堂大学 |
| 鈴木 啓之 | 63. 4. 25 - 63. 5. 6 | 日本大学 |
| 西岡 清 | 63. 7. 25 - 63. 8. 6 | 北里大学 |
| 今村 貞夫 | 63. 8. 8 - 63. 8. 18 | 京都大学 |
| 宗像 淳 | 63. 9. 12 - 63. 9. 22 | 日本医科大学 |
| 新妻 寛 | 63. 10. 10 - 63. 10. 20 | 東海大学 |
| 大河原 章 | 63. 11. 7 - 63. 11. 17 | 北海道大学 |
| 水野 信行 | 63. 12. 19 - 63. 12. 29 | 名古屋市立大学 |
| 三島 豊 | 64. 1. 7 - 63. 1. 17 | 神戸大学 |
| 小川 秀興* | 63. 1. 30 - 63. 2. 3 | 順天堂大学 |

* : 研修管理調査団

各講義用テキストは原則として担当する講師が個々に準備しているが、過去5回の講義実績をもとに全分野を包括的に含んだコース用テキストを、主要担当者の分担執筆で現在作製中。

④カウンターパートの日本研修

C/Pの受入実績は次表のとおり。

| Name | Year | duration | field |
|------------------------------|-----------|----------|---------------------------------|
| 1. Dr. Yaowalak Hantanyaponq | 1984-1985 | 1 Y | Histochemistry of Skin |
| 2. Dr. Piti Palunqwachira | 1985-1987 | 1 1/2 Y | Electron Microscope of the skin |
| 3. Dr. Harn Wonqwaisayawan | 1986-1987 | 1 Y | Immunodermatology |
| 4. Dr. Viboon Rojanavanich | 1987-1988 | 1 1/2 Y | Electron Microscopy of-Funqus |
| 5. Dr. Paisal Sivaroroskul | 1988-1989 | 1 Y | Industrial Dermatosiis |
| 6. Dr. Jiroi Sindhavananda | 1989-1990 | 1 Y | Photobiology |

表中№1の Dr. Yaowalak のみ外部へ転出した他は、帰国済みの O/P (№2～4) は研究所へ定着しており、研究所内の中堅研究者として活躍している。

⑤主要資機材

第三国研修用機材として日本から供与した機材は次表の通り。いづれも管理状況は良好であった。

このうち、1988年度の透過型顕微鏡は、1987年度単独供与機材として送られたものである。(37,434千円)

今後、日本からの供与を希望する機材が提示されたが、(別添3, 4)第三国研修における日本側が負担し得る教材・機材の定義を説明し、専門家の携行機材として認め得る機材の供与を約束するにとどめた。

しかしながら、先方の希望する品目中には相当高額ながら、今後のコース充実のためには不可欠と判断されるものも含んでおり、何らかの対応が望ましい。

⑥研修員受入実績

(ミニッツ ANNEX I 参照)

過去4回(第1～第4回)のコース参加者では定員割れが生じていたが、本年度(第5回)コースでは、定員通りの参加を見た。

定員割れの理由については、先方より、次年度コース実施に対し日本側の回答時期が遅く、GIの配布等手続きに遅滞が生じる旨の発言があった。

なお、割当国について、将来的に拡大したい考えがあるとの発言があり、これに対して調査団は、当該国のニーズ、医療体制等諸条件が確認できた後に新たに協議すべき問題であると回答した。

先方のこの希望は、DTEO タイ援助課の実施する他の研修コースの割当国に中近東、アフリカ諸国が含まれていることに由来するらしい。(別添8, 9)

⑦本邦研修

タイ国では十分経験できない近代医療機関の視察、本格的な症例検討会等を実施することにより、本研修コースの一層の充実を図ることを目的として、1987, '88年度に各一回づつ実施した。

多数の臨床例をもち込んだ講義、第一線の医師・研究者とのワークショップ、先進医療システムの視察は、研修員からとても有用な体験として高く評価された。

本邦研修は1987年度より第三国研修コースに組み入れられた新しい試みであるが、本件皮膚病コースのごとき長期研修コース及び医学のディプロマコースという特殊な性格のコースにおいては、極めて有意義と判断される。(別添10)

Institute of Dermatology

Equipments and teaching materials received from the Government of Japan
under the Third-Country Training Programme in the field of Dermatology

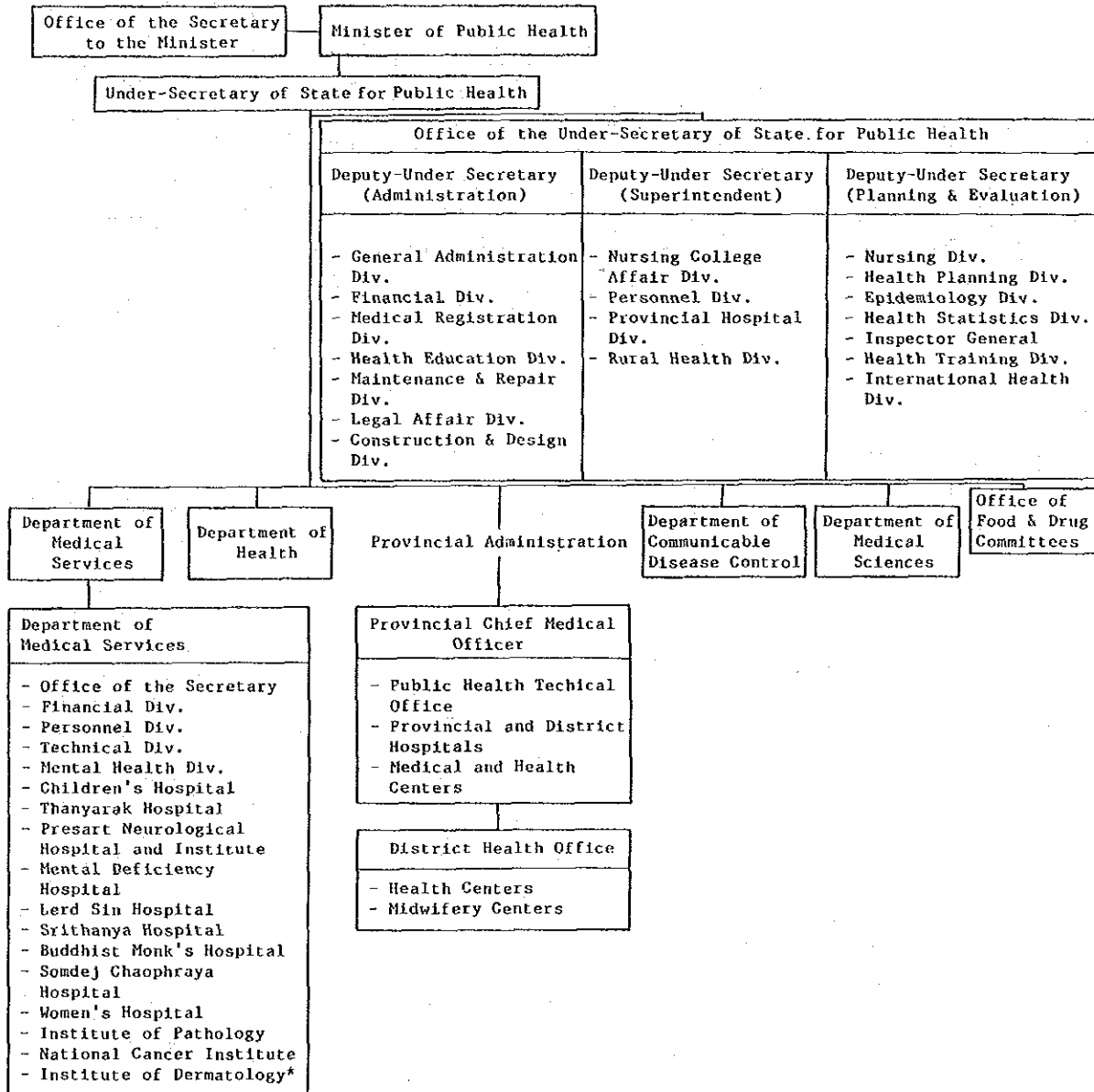
| Year | Description | Quantity | Amount (Baht) |
|-------------------------|---|-----------|-------------------|
| 2527 (1984) | Cutaneous Manifestations of Systemic Disease | 25 pcs. | 155,850.24 |
| | - Slides Projector | | |
| | - National Library of Dermatologic Teaching Slides | | |
| | - The Basic Science in Dermatology | | |
| | - A Brief Course in Dermatology | | |
| | Leser pointer | 1 set | 10,000.- |
| | Nikon, Multi-teaching Microscope Microphoto X Series, Model XF-MTH 5-21 | 1 set | 133,330.- |
| | Laser pointer | 1 set | 14,366.70 |
| | National Library of Dermatologic Slides | 14 pcs | 72,942.80 |
| | A Brief Course in Dermatology | 1 pc | 6,344.90 |
| | - Acne Vulgaris | | |
| Slides Profector | 1 pc | 20,549.90 | |
| | | | <u>413,392.54</u> |
| 2528 (1985) | (1) C.C.T.V. unit for microscope consist of | 1 unit | 380,375.- |
| | - Color camera DK 5053 | | |
| | - 14W color monitor | | |
| | - Coaxial cable 3 m. LC 102 H | | |
| | - Automatic brightness | | |
| | - Controller television | | |
| - Mirror Tube | | | |
| (2) R.F. controller PAL | 1 set | 12,308.50 | |
| (3) R.F. distributor | 1 set | 633.35 | |
| (4) Coaxial cable 3 m. | 9 pcs | 5,066.80 | |
| | | | <u>406,383.65</u> |

| Year | Description | Quantity | Amount (Baht) |
|----------------|--|----------|---------------------|
| 2529 (1986) | Electric under blanket | 1 pc. | |
| | Dispossible warner | 50 pcs. | |
| | Pocket warner, Hakukin | 5 pcs. | <u>7,513.33</u> |
| | | | <u>7,513.33</u> |
| 2530 (1987) | F.M. Wireless Microphone, Model GN - 101 | 1 | 1,000.00 |
| | Slide Projector Kodak Carousel S - AV 2050 and Lens 70 - 120 m.m. Model S - AV 1000 | 1 set | 32,900.00 |
| | | | <u>33,900.00</u> |
| 2531 | 1. Skin Surface Hydrometer "IBS Model Skicon-200 for 220 V. 50 Hz. | 1 set | 160,250.- |
| | 2. Evaporimeter "SERVO MED" Model EP-1G for 220 V. 50 Hz | 1 set | 618,965.62 |
| | 3. "CLYMBUS" Biological Binocular Microscope Model GHS-213E Objectives : ED4X, 10x, 40x, 100x (each 1) Eyepiece : CWHK 10x (2) Complete with wooden carrying case and 6 pcs. spare bulbs (6 v. 20W HAL) | 14 set | 580,505.62 |
| | 4. Copying Machine "RICOH" Model FT5010 Complete with Copy paper (A3, B4, A4 and B5) each 1 Box for 220 V. 50 Hz. | 1 set | 198,710.- |
| | 5. Microscope VHT - 45 | 1 set | 21,111.95 |
| | 6. JEM-100sx Transmission Electron Microscope | 1 set | <u>5,791,198.75</u> |
| | | | <u>7,370,741.85</u> |
| | Grand Total | | <u>8,231,931.37</u> |

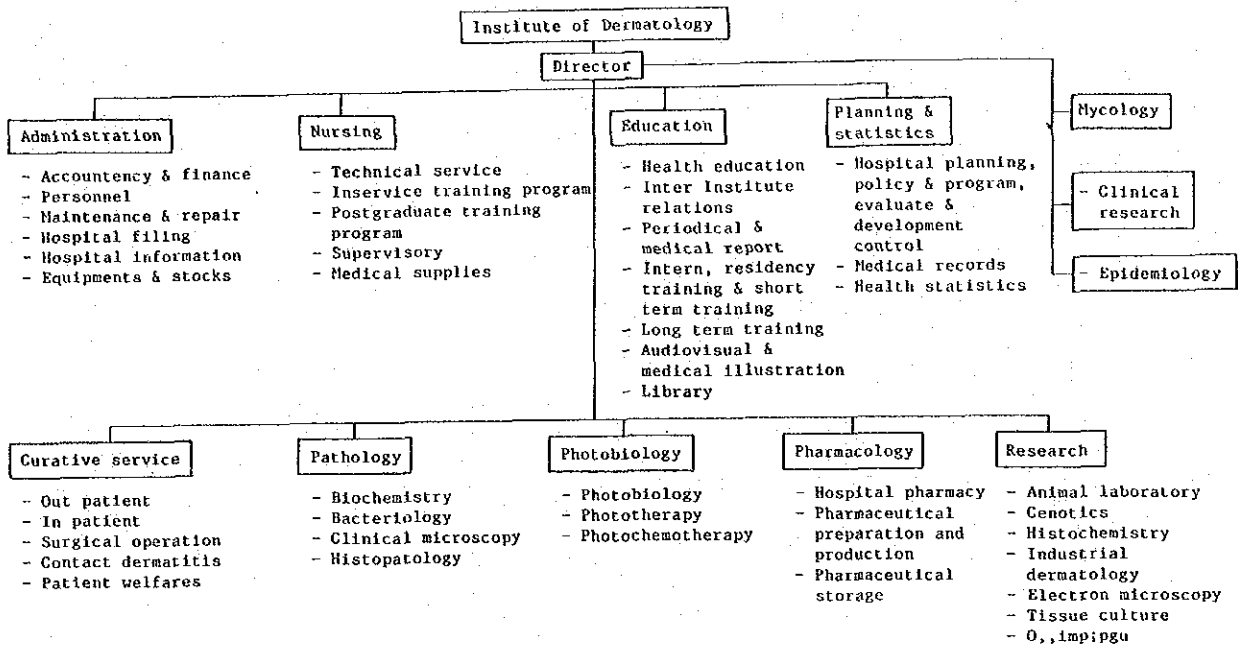
3-4. 研修実施機関

(1) 運営管理体制

① 保健省組織図



② 皮膚病研究所組織図



③ 予算措置

| | DTEC | JICA | Total (Baht) |
|---|--------------|--------------|--------------|
| 1 st Diploma Course (26 Mar.1984 - 25 Jan.1985) | 487,767.-- | 711,803.-- | 1,199,570.-- |
| 2 nd Diploma Course (25 Mar.1985 - 24 Jan.1986) | 524,000.-- | 428,614.-- | 952,614.-- |
| 3 rd Diploma Course (7 Apr.1986 - 6 Feb.1987) | 684,192.-- | 421,547.-- | 1,105,739.-- |
| 4 th Diploma Course (6 Apr.1987 - 5 Feb.1988) | 785,865.-- | 427,515.-- | 1,213,380.-- |
| 5 th Diploma Course (4 Apr.1988 - 3 Feb.1989) | 622,185.-- | 590,935.-- | 1,213,120.-- |
| Total | 3,104,009.-- | 2,580,414.-- | 5,684,423.-- |

日本側負担経費（専門家の派遣経費は含まない）

（千円）

| | 1983 | 1984 | 1985 | 1986 | 1987 | 1988 | Total |
|------------------------|--------|-------|------|-------|--------|-------|--------|
| Operational Cost | 11,325 | 5,930 | 388 | 8,037 | 5,902 | 7,204 | 38,786 |
| Equipment and Material | | | | | 37,434 | | 37,434 |

R/D上に記載された両国政府の経費分担は次の通り。

- ① 受入諸費（第三国研修員に対する航空運賃，宿泊料，日当，及び外部講師謝金，印刷・通信費）についてはタイ国側負担50%，日本側負担50%。
- ② 研修諸費（研修旅費，会議費，教科書・教材費）についてはタイ国側負担20%，日本国側負担80%。
- ③ 第三国の研修員の医療保険料は100%日本側負担。

また，経費の支払い，精算等については，以下の方法によるべきことがR/Dに定められている。

- ① DTECはコース開始の60日前までにJICAバンコク事務所に対して日本側負担経費の見積書を提出する。
- ② JICAバンコク事務所は見積書を査定し，DTECに対して，コース開始の30日前までに適正な額の経費を支払う。
- ③ 経費の支払いを確認次第，DTECはJICAバンコク事務所に対し領収書を提出する。
- ④ DTECはコース終了後30日以内に，JICAバンコク事務所に対し精算報告書を提出する。
- ⑤ 上述の経費のうち，残額については，DTECはJICAの指示に従って，その額を返納することとする。

また，航空運賃，宿泊料，日当等の残額については，他の目的に流用してはならない。

- ⑥ DTECはJICAの請求があった場合は，上述④の精算額を証明する領収書その他の書類を提示可能としておかねばならない。

4. 評価活動実績

研修管理ミッションの派遣

| | | |
|--------------|---------------|-------------------|
| 1984年12月 | J I G A 研修事業部 | { 宮本守也部長 佐藤ゆり子 |
| 1986年 1月 | 順天堂大学医学部 | 小川秀興教授 |
| 1987年 2月, 4月 | " | " |
| 1988年 2月, 4月 | " | " |
| 1989年 4月 | " | " |

順天堂大学医学部の小川教授は、毎回開講式と閉講式の時期に研修管理ミッションとして派遣され、コース運営のチェック、研修員に対する口答試問、及び次年度研修計画に対する助言・指導を実施している。

5. 評 価

5-1. 実施目的

タイ国第三国研修皮膚病コースの第5回（5年目）が終了するにあたり、研修全般にわたる総括的評価、研修ニーズの再確認、本研修コース継続の適否と今後の取り進め方、改善点などを協議する。

5-2. 評価方法

(1) 調査・協議内容

- ① タイ国保健省医務局ならびにDTECタイ援助課関係者との意見交換
- ② タイ国立皮膚病研究所関係者との意見交換
- ③ 第1回～第5回帰国研修員へのアンケート調査および第5回研修員とのインタビューに基づく研修評価
- ④ 供与せる単独機材の受け入れ状況の調査
(主要面談者の氏名は1-3項参照)

5-3. 研修効果（到達目標達成）

本コースの目的を要約すれば ①皮膚科の専門医を目指す医師に対し、診断と治療を中心として必要な訓練を実施すること、②皮膚疾患の病態病因解明に関する研究的アプローチの仕方、適切な手法の修得とその実際の応用についての手ほどきを行う、③アジア・オセアニア地域諸国の医師間の良好な関係を保つこと、の3点である。タイ側関係者ならびに第5回コース研修員からの聞き取り調査では、これらの3点の目的にたいして、単独供与機材のひとつである透過電子顕微鏡の、研究室改築の遅延による研修コースへの実際の応用への若干の遅れがあるというものの、①、②、③いずれも当初目的をほぼ達成している。

帰国研修員から回収したクエスチョネア各コース終了時の研修員アンケートおよび現地における関係者、第5回研修員との意見交換によれば（下記要点の集計表）、研修で得られた技術と知識は各自の皮膚疾患の日常診療業務上で、きわめて有益であり、十分な研修効果があがっていると判断される。

* クエスチョネア集計結果（別添1参照）：回収率55.3% 多くの最新知識を得た者（95.7%）、技術レベルが大きくアップしたもの（93.6%）、仕事に対する態度、考え方が大きく変わった者（76.6%）、得た知識・技術を仕事に大いに活かしている者（80.9%）、今後、得た知識・技術が自国の皮膚病学分野の発展に大いに役立つと思う者（59.6%）

5-4. 研修計画

① 期間・時期

研修員のアンケート等により約95%が現行の期間と時期は適切としている(別添2)。ただし、割当国関係機関へのGI(General Information) 発送時期と参加申し込みのdead line を勘案すれば、研修時期は5月初旬(現行は4月)からが適切という結論が本調査団と現地関係者の間でなされた。

② カリキュラム

研修員の大多数は現行カリキュラムは適切であったとしている。(別添2)

- i) なお今回の評価調査に際し現地関係者から、1) 性行為感染症(STD)とエイズ(AIDS)、2) プライマリーヘルスケア(Primary Health Care)、3) 細胞培養と器官培養、などのカリキュラム中での拡充、追加の要望があり(別添5)、現地ニーズから考えてこれらの対応は適切な要望と判断した。
- ii) 派遣専門家については、講義時間を若干短縮し、臨床研究面の実地的指導へより多くの時間を割くことがよいというコメントがなされた。これはこれまでの派遣専門家の担当せる講義の一部は、本部にて研修終了せるカウンターパートが代りうるレベルに達しつつあることを意味し、一方派遣専門家の臨床研究への指導参画がやっと現地ニーズとして要望されるに至ってきたことを意味する。
- iii) 第3回と第4回で行われた本邦研修の研修効果が絶大であったことは特筆される(別添10)。本邦研修にて、わが国の医療施設で高度先進医療に接し研修した知識と技術の評価は極めて高い。加えて、結果的に多くの知日家の出現をみたことは、本邦研修の重要性をつよく示唆しているといえる。本邦研修の継続は、今後とも必須のカリキュラムである。本邦研修は途上国の皮膚科医に広く門戸を開く国際的ディプロマコースとしての本コースにとって極めて有意義なカリキュラムの1つである。

③ 割当国・定員・応募資格

現行の割当国(17国)すなわちバングラデシュ、ブータン、ビルマ、中国、インド、インドネシア、韓国、マレーシア、モルディブ、パキスタン、フィリピン、シンガポール、スリ・ランカ、ブルネイ、フィジー、タイ、パプア・ニューギニア、定員(第三国からの参加者14人、実施国からの参加者7人以下)、応募資格は(医師であること)は妥当であると判断される。ただし、現地実施機関から割当国の拡大と若干の定員増が希望としてコメントされたことを附記する。

5-5. 研修実施機関

(1) 研修指導能力

本コースの研修実施機関としては、タイ国立皮膚病研究所 (Institute of Dermatology) が実施している (2-4 参照)。当該研究所の研修指導能力は過去 5 回本コースに参加した研修員にたいするアンケート、クwestionネア、派遣専門家の報告、第 5 回参加研修員に対するインタビュー等から判断して、ほぼ満足いくものと判断される。

これは、前所長 Dr. Renoo, 現所長 Dr. Preya を筆頭として、全職員が本コースの課程の準備、教材の作成、講師陣の手配などに情熱的に取り組んできたためと思われる。本邦で研修せるカウンターパートがうまく育成されつつあることも本コースの円滑な運営に大きく寄与している。

しかし、カリキュラムの一部、とくに臨床研究面では彼我の差はまだまだ大きく、今後とも専門家を派遣し指導を要する。

教材については、これまでは専門家個々が教材を配布していたが、本コースを通じての Text Book を一巻にまとめて作製し研修員に配布することが望ましい。

実習用機材に関しては透過型電子顕微鏡が近々に設置される。このことにより、該研修実施機関におけるカリキュラム内容が飛躍的にレベルアップするであろうことが期待される。ただし、本機材の十分な利用にはオペレートならびにソフト関係のテクニックに関し優秀なカウンターパートの本邦受け入れによる養成が必要である。さらに、今後、photobiology cell culture などについての機材の供与ならびに、それに伴うカウンターパートの養成が必要と判断される。

(2) 研修運営管理能力

研修運営管理能力に関しては、研修員に対するアンケート、クwestionネア、専門家の報告、現地関係者との協議の結果から判断し、コース実施上満足すべきものと思われる。

なお、講義室の若干の改善 (黒板の塗り直しなど)、研修員の宿舎 (第 5 回研修員のインタビューでは一部の研修員から全員がなるべく同一の宿舎に入ることが望ましいとの意見が出された、などに若干の配慮が望まれる。

5-6 日本の協力

(1) 経 費

過去 5 回にわたる日本側の負担額は総額 7 6, 2 2 0 千円 (ただし専門家の派遣経費は含まない) であるが、研修員に対するアンケート、専門家の報告、先方関係者との協議結果等から判断し、本コース実施上妥当な額であったと思われる。

なお、このうえ単独機材供与 (透過型電子顕微鏡及び関連機器) は総額 3 7, 4 3 4 千円と

なり、昭和63年度内に周辺設備の整備と据え付け工事が完了する予定であり、今後の本研修コースへの有効利用が期待されている。

(2) 専門家の派遣

本コース開設後第1回～第5回で延べ40名の専門家を派遣し、講義、臨床実習、研究指導、カウンターパートに対する専門指導を行うことにより本コースの実施に大きく貢献した。研修員に対するアンケート結果あるいは先方関係者との協議結果から、これら専門家は研修員、カウンターパート、実施機関職員等から絶大の信頼を寄せられていることが感得された。

(3) カウンターパート(C/P)の受け入れ

これまで5名のカウンターパートを受け入れている(3-3(3), ⑤)。このうち3名は帰国後すでに本コースの研修実施に積極的に参画している。

なお、未研修のカウンターパートの日本での研修希望意欲は強く、今後は現地実施機関の現状に合わせ、(1)研修期間を1年間に固定せず、必要に応じて3カ月研修あるいは6カ月研修なども考慮する、(2)カウンターパートも医師に限らず(これまでではすべて医師)、その他の職種(実施機関で働く化学部出身者)からも必要性に応じて本邦研修を行わせる方がよい、などのコメントが協議の席上提案され、基本的には日タイ双方の関係者で了解された。

(別添6)

6. 総合評価

- (1) 本調査団派遣の目的は、第5回(5年目)研修コースが終了するにあたり、過去5年間に亘り実施された第三国研修(皮膚病)の研修実績、日本側の協力実績を踏まえ、研修全般にわたる総括的評価をタイ側と行うと共に、研修コースの再確認を行い、継続の適否を含め今後の本研修の取り進め方について協議することであった。
- (2) 以上の目的に沿い、調査団は1988年10月30日~11月5日迄タイ国に滞在し、タイ国保健省医務局長、国立皮膚病研究所長を含む保健省、D T E O等のタイ側管轄官庁・施設関係者と緊密なる協議を行い、且つ本研修コースに参加した過去及び現在(5回次)のタイ及び第三国研修員多数より、多角的事情聴取を行った。また在タイJ I O A及び日本大使館関係者とも綿密な協議を行った。以上を総合的に検討した結果、次の通りの結論をもって、日本政府に報告・提案することとした。
 - ① 過去5年間(5回)行われた皮膚病研修コースの研修成果については、各年度及び今回まとめて行った Questionnaire 並びに第5回研修員に対する直接インタビュー等により総合評価を行ったが、カリキュラムの編成、講義・実技指導の内容、期間及びコース管理等について殆ど問題なく、ほぼ全員の研修員が初期の目的を達成して満足して帰国しており、帰国後は各々の国において皮膚科専門医あるいは指導医として責任ある地位につき、国民の医療・福祉の向上に貢献しているとの回答であった。
 - ② 研修計画上の問題としてタイ側より提起された問題点は、本研修コース継続の可否の判定が過去5年間各年次毎であった為に研修員募集の為にG Iの発送時期とdead lineとの間が短かすぎたので、この際何とか5年間継続実施の約束をして貰えないかとの強い提案があった。その場合は基本事項を記載したG Iの1括作成と早期配布が可能となるとの事であった。また研修開始時期については、現行は4月であるが諸行事の多いこの時期を避け5月開始としてはどうかとの提案が日本側専門家より出された。以上2点については日・タイ双方共に適切な指摘である旨結論された。
 - ③ 研修カリキュラムについて、タイ側実施機関である国立皮膚病研究所所属の皮膚科学者より、i) 性行為感染症とくにA I D S (エイズ)関係の専門家の派遣、同じく ii) primary health care, iii) 細胞および器官培養に関する日本側専門家の派遣によるカリキュラム補強・追加を計りたい旨の強い要望があった。これらに関してはタイ国保健省関係者よりも同様な要望があり、適切なものと判断した。以上 i) ii) の点に関しては新しく発見あるいは提起された看過すべからざる医学上の問題点であり、iii) に関しては皮膚科学研究の新しい技術手法として近年確立して来たものであり、云わば近代皮膚科学の流れとも云えるものである。
 - ④ タイ国保健省、D T E O、国立皮膚(科)病研究所等、本研修コース関係者一同は総じて本皮膚病第三国研修に極めて熱心で、その出来るだけ長い継続を切望していることが強く

我々に感得された。その最も強い理由は、タイ国は勿論のこと高温・多湿状況下にあるこのアジア・太平洋領域諸国においては、皮膚病罹患率は極めて高く、それに対応する皮膚病専門医に対するニーズは依然高い状況にあること、そしてかつてこれらに専門医育成の場を提供していた欧米先進国に替わって、日本国に対する信頼度と期待度が飛躍的に上昇した為と思われる。

加うるにタイ国としては、本研修コースを日本国の支援の下に主管運営していくことは、自国のニーズを満了のみならず、近隣アジア・太平洋16諸国の要望に答えるという、プライマリー・プロジェクトであるとの認識が、その発展的継続を関係者一同、切望している理由と考えられる。

- ⑤ 5年間に亘って本邦において受け入れたC/Pは殆ど自力で講義及び実習の1部を担当するようになり、まだ来日経験のないタイ側皮膚科医は出来るだけ早い機会に日本で更なる研修をうけ帰国後の指導、本研修コースの支援・代行に役立てたいとの強い要望があった。

C/Pの育成に従って、日本側専門家派遣員数及び期間の短縮が検討されたが、タイ側としては高度な専門知識・技術を有する日本側専門家の派遣は本研修コース成功の要であり、引き続き現行ないしそれ以上の協力・支援の要請があった。その理由として、i)本研修コースは高度な専門知識・技術の伝授を行う専門医育成コースであり、いわば大学院大学課程のようなものである。従って1年間の本邦研修を受けたC/Pはその1翼は代行できるものゝ早急な期待は薄いこと。ii)医学全般、特に皮膚科領域での診断・治療への技術革新は日覚しく、タイ国を含め技術革新能力のない第三国としては、常に新しい知識・技術の伝授が不可欠であること。iii)先述した如く、新しい疾病(エイズを始めとする新しい性行為感染症)に対する対応に迫られていること。そしてプライマリー・ヘルスケアの重要性と、その中に占める皮膚病・性病・ライ・皮膚結核などの重要性の認識。などが挙げられた。

- ⑥ 供与機材については、日本側専門家による携行機材は全て良く保管・運用されており、タイ側としては大変感謝すると同時に日本側の引き続き協力を望んでいた。特に単独供与機材である電子顕微鏡に対する期待は大きく、今後も、このような高額ではないにしても携行機材費枠を上廻る程度の機材各種の供与について、具体的機種名を挙げながらの強い要望が示された。

即ち、これら機材を導入しつゝ本邦において1年間育成されたC/Pの継続的研究指導能力の練磨と、これらに対する日本側専門家による *Investigative dermatology* の伝授の期待が強く要望された。

- ⑦ 研修員全員の短期間本邦研修は、経験者の満足度も高く、第三国タイ側双方より継続の希望が強く示された。研修生側のみならず、日本側としても高度先進技術を示し、各種機材を用いた診断・治療技術を現場で示し伝授するという教育上のメリットは大きい。但し、

日本側の現場(況)に触れた第三国からの研修生は、本コース終了後本邦での更なる研修3～6ヶ月コースを望んでおり、タイ側C/Pとの対比上、将来的には何らかの道を拓く、或いはJICA受け入れ外国人留学生の枠を増やす必要性が感じられた。

- ⑧ 以上、多角的に検討し、それを総括した結果、過去5年間に亘って行なわれた皮膚病研修コースのもたらした成果は絶大なものがあり、タイ国および周辺第三国16ヶ国の皮膚病専門医の育成に、正に主導的な役割りを果たしたことは疑うべくもない。タイ国政府関係者は一様に本コースの継続を強く望んでおり、日本側協力に感謝しつつ更なる期待を寄せている。実施機関の理解、研修計画の立案、実施状況も論理的であり遂行能力も高い。即ち、タイ国立皮膚病研究所はタイ国政府の指導下に自国のみならずアジア・太平洋諸国における皮膚科専門医育成のニーズに答える為、1976～1983年にかけて上記17ヶ国を対象に皮膚科研修コース3ヶ月コースを実施しており、その経験度は高い。日本国は従来、タイ国の要請に基づきこの3ヶ月コースに個別専門家を派遣(1978～1983年)していたが、同コースの質的、量的拡大を希望するタイ側の要請に基づき、10ヶ月の正式な専門医資格修得コースを1983年にタイ側を支援して発足させた。その後5年間の協力実績に対するタイ側の関係者ならびに参加研修員の評価は極めて高く、又、アジア・太平洋地域における皮膚病専門医に対するニーズも依然高い状況にあることは間違いのない事実である。これら、本研修に対する評価からして、又、日本側協力に対する評価の高さからして、本研修の更なる継続とこれ迄以上の協力が強く望まれる。

7. 提 言

延長の際の具体的提言は以下の通りである。

- ① 各年次において本研修コースの細部についての調査・検討および改善は従来通り行うものゝ、従来の如く続行の可否をそのつどタイ側に通知し、その後GI配布を許可するのではなく、今後最低5年間の継続実施の約束をし、GI配布早期化による研修員応募の容易化が望まれる。開始時期は毎年5月初旬とし、終了は翌2月末日となる10ヶ月コースが適当と思われる。
- ② 研修カリキュラムの追加、更に近代的・高度なものへの変換は不可欠である。即ち、i) AIDSなどのSTD問題(新しく登場した問題)、ii) 細胞・器官培養法伝授と応用(技術革新)問題、iii) プライマリ・ケアとしての皮膚病(新しい角度からの分析を要する課題)、などの追加は行うべきである。従って、可能ならば専門家人数枠(現行8人)の拡大が望ましい。
- ③ C/Pは着実に伸びており、初期に日本側派遣専門家によって伝授されていた講義・技術の1部を代行できるようになっている。タイ側の教育陣、これらC/P経験者は皮膚科学者としてのC/Pの継続的成長を望んでおり、日本側専門家によるこれら *Investigative dermatology* の指導を望んでいる。
そこで、C/Pに初期教育を出来るだけ代行させ、生じた余力期間を用いて、C/Pを中心とするタイ側教育陣に研究皮膚科学の伝授に努める。従来、日本側専門家は派遣期間(2週間)内に35時間の講義・実技指導があったが、これを3割程度削減してその余力を *Investigative dermatology* の指導に廻すことが期待される。なおC/Pについては対象を技術員に拡大すること、期間の短縮化が望ましい。
- ④ 供与機材については、切角育成したC/Pの継続的成長を計る為にも技術革新に付随した近代化せるものの供与が望ましく、又、専門家による携帯(教材)用枠だけでは必ずしも対応できない。事情の許す限り、単独機材などの枠を積極的に投入されたい。
(特に邦貨300~1000万円位の機材のニーズが高いが、現行制度では仲々難しい)。
- ⑤ 研修生の本邦研修はその波及効果から継続が望ましい。
- ⑥ 本件の如き専門知識、技術研修は、i) 第三国研修(水際作戦)に引き続く、ii) 本邦研修(更に高度技術の伝授)が望ましく、ii)は長期間がよい。(3~24ヶ月)。
この件は事情が許す限り取り入れるべきである。
- ⑦ 過去5年間の教育用マニュアルは、各講師陣が作成した教材をゼロックスして配布していたが、それらが整備・蓄積されてきたこと。そして何よりも手間がかかりすぎるので、5年継続ということになれば、是非、この際ハンド・ブック(テキスト)作成の為の予算を付すことが強く要望される。出来れば2~3回改訂して、より良き教材を完成させる必要がある。

(添付資料)

- 別添
1. 帰国済研修員へのクwestionネア集計
 2. コース終了時アンケート結果(抜粋)
 3. 5回コース要望機材リスト
 4. 6回コース #
 5. 6回コース要望日本人専門家の担当分野
 6. C/P日本研修計画(要望)
 7. PHCのための研修旅行
 8. DTEGタイ援助課所掌研修事業
 9. # (割当国)
 10. タイ第三国集団研修(皮膚病学)63年度本邦研修総括報告
 11. ミニッツ(R/D案別添)
 12. 6回コースG.I.(案)

SUMMARY
QUESTIONNAIRE

To the Ex-Participants of the Third Country Training Programme.

Diploma Course in Dermatology

Please reply the following questions. In order to evaluate the course and improve the future scheme of the Third Country Training Programme, your frank opinions and suggestions are eagerly welcomed.

(Please write in block letters or type)

I. General Questions

- (1) Name in Full : Total No. of Ex-Participants of 1st -
4th Diploma Course in Dermatology 85,
- (2) Home Address : Foreign 56, Thai 29
Questionnaire sent out 85, Foreign 56,
Thai 29
received 47, Foreign 33, Thai 14
- (3) Office Address : 55.29% 58.93% 48.28%

- (4) Year of Participation : _____
- (5) Employment recored (since you participating in the course up to the present)

| Duration of Services | Post | Division and organizations |
|----------------------|------|----------------------------|
| | | |

- (6) Please show a chart of your organization and indicate your present position.
 (If available, please attach an organization chart indicating number of personnels in each section, department/centre)

| | Foreign | Thai | (Total) |
|---|---------|------|---------|
| (7) Type of your Institutions (Please pick one out) | | | |
| Governmental | 37 | 13 | (50) |
| Semi-governmental | | | |
| Private | 6 | 1 | (7) |
| Others | | | |

- (8) Does anyone of superiors usually recommend some of his staffs to apply for the course?

| | | | |
|-----------|----|----|------|
| Always | 9 | 0 | (9) |
| Sometimes | 16 | 3 | (19) |
| Never | 6 | 11 | (17) |

- (9) Do you recommend your colleagues to apply for the course?

| | | | |
|-----|----|----|------|
| Yes | 32 | 10 | (42) |
| No | 0 | 3 | (3) |

(10) Have you participated in any other courses in your country or abroad after the training?

| | Foreign | Thai | (Total) |
|-----|---------|------|---------|
| Yes | 8 | 5 | (13) |
| No | 26 | 10 | (37) |

If yes, please give the information.

| Duration of the Course | Institute/Place/Country | Name of the Course and its Content |
|------------------------|-------------------------|------------------------------------|
| | | |

II. Training Outcomes

(1) To what extent had you acquired the update knowledge through the course?

| | | | |
|------------|----|---|------|
| very much | 18 | 7 | (25) |
| much | 13 | 7 | (20) |
| some | 2 | 0 | (2) |
| a little | | | |
| not at all | | | |

(2) To what extent had your techniques been leveled up through the course?

| | | | |
|------------|----|---|------|
| very much | 14 | 6 | (20) |
| much | 16 | 8 | (24) |
| some | 3 | 0 | (3) |
| a little | | | |
| not at all | | | |

(3) To what extent had you changed your attitude and/or way of thinking toward your duties through the course?

| | Foreign | Thai | (Total) |
|------------|---------|------|---------|
| very much | 12 | 4 | (16) |
| much | 13 | 7 | (20) |
| some | 8 | 2 | (10) |
| a little | | | |
| not at all | 0 | 1 | (1) |

(4) To what extent could you apply the knowledge, techniques and experience acquired in the course to your job?

| | | | |
|------------|----|---|------|
| very much | 16 | 7 | (23) |
| much | 10 | 5 | (15) |
| some | 7 | 2 | (9) |
| a little | | | |
| not at all | | | |

(5) How are you making use of the knowledge, techniques and experiences you acquired in the course? Please mark appropriate boxes.

I am utilizing the above experiences for:

| | | | |
|---|----|---|------|
| Lectures in the research institute or hospital | 15 | 1 | (16) |
| Training courses and seminars | 17 | 3 | (20) |
| Making reports and writing articles in technical literature | 12 | 2 | (14) |
| Informing personally to the staff | 15 | 6 | (21) |
| On-the-job training | 15 | 5 | (20) |
| Others () | 12 | 2 | (14) |

(6) Please indicate if personal improvement has occurred in your job or work since you attended the course.

| | Foreign | Thai | (Total) |
|----------------------------------|---------|------|---------|
| No improvements | | | |
| Yes, there is/are improvement(s) | | | |
| | 33 | 14 | (47) |

If yes, please check where applicable:

| | | | |
|-----------------------------------|----|----|------|
| work conditions | 20 | 9 | (29) |
| responsibility | 26 | 10 | (36) |
| prospects for the future | 19 | 6 | (25) |
| salary-rise | 5 | 0 | (5) |
| in obtaining another (better) job | 8 | 1 | (9) |
| contents of work | 13 | 7 | (20) |
| professional recognition | 20 | 10 | (30) |
| international contacts | 20 | 2 | (22) |

III. Technical Problems and Difficulties

(1) Please describe technical problems and difficulties you/your institute are/is now being encountered. If any. (See Annex I)

a)

b)

c)

d)

(2) Now or from now on what are the necessary techniques for you/your institute? (See Annex II)

a)

b)

| | Foreign | Thai | (Total) |
|--|---------|------|---------|
|--|---------|------|---------|

c)

d)

(3) To what extent did your attending the course give you the solution of the above-mentioned technical problems and difficulties?

| | | | |
|------------|----|---|------|
| very much | 6 | 4 | (10) |
| much | 8 | 1 | (9) |
| some | 10 | 4 | (14) |
| a little | 2 | 0 | (2) |
| not at all | 4 | 2 | (6) |

(4) What do you consider are obvious obstacles in disseminating what you acquired in the course?

Check in each items A and B.

A. Lack of:

| | | | |
|-----------------------------|----|---|------|
| trained personnel | 15 | 5 | (20) |
| support of supervisor | 13 | 4 | (17) |
| foreign experts | 12 | 1 | (13) |
| equipment | 28 | 6 | (34) |
| research facilities | 23 | 4 | (27) |
| technical literature | 17 | 0 | (17) |
| national research institute | 8 | 1 | (9) |
| funds | 22 | 4 | (26) |
| career perspective | 8 | 1 | (9) |

If there are some more obstacles than those described above, please write them. (See Annex 3)

- Easy contact with the National Research Center due to geographical position of my Institution (B.B.Bhowmik)
- Diploma course should be improved upto Master & Ph.D. level. (Shahid Ullah)
- Lack of patients (Ong Too)

| | Foreign | Thai | (Total) |
|-------------------------------|---------|------|---------|
| B. Various constraints | | | |
| economic situation | 20 | 7 | (27) |
| poor management | 10 | 2 | (12) |
| too much foreign influence | | | |
| | 2 | 2 | (4) |
| political situation | 10 | 1 | (11) |
| brain drain | 2 | 0 | (2) |
| promotion structure | 8 | 0 | (8) |
| no in-service training | 18 | 3 | (21) |
| poor maintenance of equipment | | | |
| | 12 | 0 | (12) |

If there are some more constraints than those described above, please write them. (See Annex 3)

No official recognition of Diploma (Wijekoon)

None recognition of this Diploma in Sri Lanka for promotion or salary increase. (Nanda)

IV. Others

(1) To what extent has the situation of this field in your country changed since you attended the course?

| | | | |
|------------|----|---|------|
| very much | 6 | 2 | (8) |
| much | 3 | 4 | (7) |
| some | 9 | 4 | (13) |
| a little | 10 | 2 | (12) |
| not at all | 4 | 2 | (6) |

| | Foreign | Thai | (Total) |
|--|---------|------|---------|
| (2) To what extent will you contribute to the future development of this field with the knowledge and techniques acquired in the course in your country? | | | |
| very much | 11 | 0 | (11) |
| much | 10 | 7 | (17) |
| some | 10 | 6 | (16) |
| a little | 1 | 1 | (2) |
| not at all | | | |

(3) Do you hope to have another training at advanced level?

| | | | |
|-----|----|----|------|
| yes | 29 | 11 | (40) |
| no | 3 | 3 | (6) |

If no, please remark the reason.

(4) To improve the future programme of the course, please describe your frank comments and/or suggestions. (See Annex 4)

Thank you very much for your kind cooperation.

Questionnaire

To the Ex-Participants of the Third Country Training Programme

III. Technical Problems and Difficulties

(1) Please describe technical problems and difficulties you/your institute are/is now being encountered. If any.

1. Efren S. R. Palabyab, Philippines 1987 - 88
 - a) Lack of support facilities such as mycology, immunofluorescence, photobiology, even microscopes.
 - b) Lack of trained manpower to compliment my work in Dermatology.
 - c) Expensive dermatological drugs which most patients cannot afford.
 - d) No dermatological books and journals for reference.
2. Natanael Shem, Indonesia 1986 - 87
 - a) Lack of technical literature.
 - b) Lack of laboratory facilities and material.
 - c) Lack of equipment.
 - d) Lack of tutor.
3. Benoy Bhusan Bhowmik, India 1985 - 86
 - a) Lack of few instruments.
 - b) Lack of trained technician.
4. A.K.B. Zaman, Bangladesh 1985 - 86
 - a) Lack of sufficient medical instrument and implements in this line.
 - b) Lack of better suggestion and guidance in case of problem if any.
5. MD. Shahid Ullah, Bangladesh 1984 - 85
 - a) Lab. facilities are inadequate.
 - b) Library hall room is small and number of books are few.

6. Mrs. Kunaranjitham Kugadas, Sri Lanka 1985 - 86
 - a) No dermatopathologist available here.
 - b) No mycology facilities.

7. Chandana J. Wijekoon, Sri Lanka 1987 - 88
 - a) Lack of trained and qualified personnel in Dermatology and dermatohistopathology.
 - b) Lack of diagnostic and therapeutic equipments e.g. Immunological procedures, PUVA, Patch testing etc.
 - c) Lack of facilities for obtaining current knowledge and information (No Dermatological Library)
 - d) Government does not officially recognise our Diploma as post-graduate qualification.

8. Wan Junzeng, China 1986 - 87
 - a) Extract antigen from Dematiaceae fungi.
 - b) Not have cycloheximid for research.
 - c) Lack funds for research.

9. Mangal C. Jain, Nepal 1986 - 87
 - a) Lack of funding.
 - b) Shortage of latest instruments.
 - c) Lack of trained Immunological staff.
 - d) Lack of trained Histopathologist.

10. Mrs. Nanda D. Seneviratne, Sri Lanka 1987 - 88
 - a) Lack of basic requirements.
 - b) Lack of trained personnel e.g. qualified dermatopathologists.

11. Chang Xiao-Min, China 1987 - 88
 - a) Need improve special technical.

12. Abdul Azeez, Maldives 1987 - 88
 - a) Lack of a properly trained dermatologist.
 - b) Lack of laboratory staff trained in dermatological investigations.

13. Yu Bao Tian, China 1984 - 85
 - a) Research facilities.
 - b) International academic exchange.

14. Janak Kumar Shrestha, Nepal 1986 - 87
 - a) Lack of investigative facilities.
 - b) Lack of trained Dermato-pathologist.
 - c) Lack of trained Mycologist and photobiologist.
 - d) Lack of equipments for the above.
15. Sun Qiuning, China 1987 - 88
 - a) There are not enough equipments in our department.
16. Zhao Tian-En, China 1985 - 86
 - a) The instruments are old.
 - b) Some new drugs are not sufficient.
17. Bimala Ojha, Nepal 1984 - 85
 - a) No Lab. for Dept. of dermatology separately.
 - b) No Lab. technician.
 - c) No dermohistopathologist.
 - d) No photobiology dept.
18. Lt. Col. Md. Nural Amin, Bangladesh 1986 - 87
 - a) Non availability of technical staffs and equipments.
 - b) Lack of proper understanding by superiors, who are specialist in internal medicine only.
19. L. Chintha Perera, Sri Lanka 1986 - 87
 - a) Lack of trained personnel es. Dermatohistopathologists, Mycologists, etc.
 - b) Lack of equipment.
 - c) Lack of funds for research etc.
 - d) Political situation prevailing in the country.
20. Eric F. Pondaag, Indonesia 1987 - 88
 - a) Lack of personnel/colleague
 - b) Lack of well trained laboratory personnel
 - c) Limited budget for research programmes
21. Abdul Rafiq Sami, Pakistan 1985 - 86
 - a) Dermato-histopathology. Our Department have managed to get the slides and arranged to see those slides ourselves for diagnosis.

- b) Mycology laboratory, not established yet.
 - c) Trying to arrange for patch testing.
22. Maria P. Battung-Pacia, Philippines, 1986 - 87
- a) The expenses incurred for lab. procedures esp. in Immunology.
 - b) Since I practice in the province, lab. facilities are inadequate.
23. Danilo M. Mactal, Philippines 1987 - 88
- a) Lack of facilities and funds in my area.
 - b) Unavailability of medicines.
 - c) Lack of training on the part of our medical technologists.
 - d) Rising costs of medicine facilities.
24. M. Natsir Borman, Indonesia 1987 - 88
- a) Staff are not well trained.
 - b) Laboratory not yet complete.
 - c) Biopsy still not possible yet.
25. Thomas Anthony Delaney, Australia 1986 - 87
- a) Lack of hospital funding - shortage of nursing staff.
 - b) Lack of PUVA.
26. Chandran Rajagopal, Malaysia 1986 - 87
- a) Recognition of Dermatology Diploma by health authorities and the Dermatological Society of Malaysia.
 - b) As such unable to participate in Seminars and meeting to update my knowledge.
27. Ong Too, Malaysia 1987 - 88
- a) Better diagnosis.
 - b) Better Management.
 - c) Better understanding of Dermatological problems.
28. Abdul Mubarak Seenikatty, Malaysia 1986 - 87
- a) Compliance of patients to investigation - reluctance due to cost.
 - b) Unable to obtain another opinion in case of difficulty in arriving at a reasonable.

29. MA. Evelylna G. Guzman, Philippines 1985 - 86

- a) Financial support for an researcher.
- b) Lack of modern facilities e.g. immunofluorescent microscope.
- c) Lack of latest journals and books due to the lack of fundings.

Questionnaire

To the Ex-Participants of the Third Country Training Programme
(Thai doctors)

III. Technical Problems and Difficulties

- (1) Please describe technical problems and difficulties you/your institute are/is now being encountered. If any.
1. Vitit Banjong, Singburi Hospital 1985 - 86
 - a) Fungal culture is not available for study of epidemiology.
 - b) Diagnosis of allergic contact dermatitis (occupational).
 2. Suthep Pyrochpongpun, Saraburi Hospital 1984 - 85
 - a) No pathological laboratory in Saraburi Hospital.
 - b) No well-training technician for mycological lab.
 3. Thanapol Chantrasawang, Udonthani Hospital 1986 - 87
 - a) When I come across the difficult cases, I have no one to consult and I have to work in internal medicine too, Not much time to revise.
 - b) Most of patients are poor and loss of follow up.
 - c) Lack of good technician lab.
 4. Somkiat Mayurasakorn, Samutsakorn Hospital 1985 - 86
 - a) No experienced technician.
 5. Usa Janjarussin, Chiang Rai Hospital 1986 - 87
 - a) Cannot fix the tissue to slide.
 6. Samran Tannapai, Nakorn Si Thammarat Hospital 1986 - 87
 - a) We lack dermatopathologist to confirm our problem case, we have only pathologist.
 7. Chana Gunadham, Trang Hospital 1985 - 86
 - a) Lack of technician.
 - b) Lack of laboratory facility.
 - c) Less activity in research or seminars.
 - d) Non-cooperation from other medical staffs.

8. Vasant Vongsinchai, Nakornchaisri Hospital, Nakorn Pathom
1986 - 87

a) Beuraucratic procedure.

Questionnaire

To the Ex-Participants of the Third Country Training Programme

III. Technical Problems and Difficulties

(2) Now or from now on what are the necessary techniques for you/your institute?

1. Efren S. R. Palabyab, Philippines 1987 - 88
 - a) Correct diagnosis and treatment.
 - b) Need additional manpower to improve service and training.
 - c) Need equipments in Dermatology to increase efficiency.
 - d) Manpower training.
2. Natanael Shem, Indonesia 1986 - 87
 - a) Technical literature.
 - b) Laboratory facilities and material.
 - c) Equipment.
 - d) Tutor.
3. Benoy B. Bhowmik, India 1985 - 86
 - a) Selection of the difficult cases.
 - b) Through investigation of these cases.
 - c) Discuss these cases in clinical conference.
 - d) Educate the persons by attending social workers how to prevent many diseases.
4. A.K.B. Zaman, Bangladesh 1985 - 86
 - a) I want to be trained further to serve in a better way.
 - b) A few number of medical personnel needed.
5. Ashok Kumar Chaurasia, Nepal 1986 - 87
 - a) To have more and more clinical.
 - b) Lectures with theoretical regarded lectures.
6. MD. Shahid Ullah, Bangladesh 1984 - 85
 - a) To improve the lab. facilities.
 - b) To add more books to the library catalogue.

7. Mrs. K. Kugadas, Sri Lanka 1985 - 86
 - a) Dermatopathologist.
 - b) Mycologist.

8. Chandana J. Wijekoon, Sri Lanka 1987 - 88
 - a) Training & educating more personnel in Dermatology.
 - b) Equipment for Immunological studies, Phototherapy, Patch test etc.
 - c) Access to Dermatological textbooks & journals.
 - d) Recognition of Diploma of Dermatology (Thailand) officially by the government.

9. Wan Junzeng, China 1986 - 87
 - a) Techniques of extracts antigen from fungi.
 - b) Techniques of tissue cell culture.
 - c) Technical guidance.

10. Mangal C. Jain, Nepal 1986 - 87
 - a) Clinical
 - b) Histopathological
 - c) Immunological

11. Mrs. Nanda D. Seneviratne, Sri Lanka 1987 - 88
 - a) Light microscope to carry out simple investigations.
 - b) Proper facilities to do Histological specimens and qualified dermatopathologist to read the slides.

12. Abdul Azeez, Maldives 1987 - 88
 - a) Consultant dermatologist to guide me and other staff.
 - b) To train one laboratory staff in the Institute of Dermatology so that he is familiar with the techniques.

13. Yu Bao Tian, China 1984 - 85
 - a) Immunomicroscopy techniques
 - b) Lab. examination of Sexually Transmitted disease.

14. Janak Kumar Shrestha, Nepal 1986 - 87
 - a) Dermatopathology lab.
 - b) Mycology lab.
 - c) Contact clinic
 - d) Immuno-dermatology & Photobiology

15. Sun Qiuning, China 1987 - 88
 - a) The equipments for phototesting and phototherapy.
 - b) The most necessary techniques in our department.

16. Zhao Tian-En, China 1985 - 86
 - a) To study for basic pathophysiology of the skin.
 - b) To study for ultrastructural appearance of dermatosis.
 - c) Physical therapy.

17. Lt. Col. Md. Nural Amin, Bangladesh 1986 - 87
 - a) To make the superious acquainted with the problems faced by Dermatologists.

18. L. Chintha Perera, Sri Lanka 1986 - 87
 - a) Provision of equipments e.g. Microscope etc.
 - b) Trained paramedical staff.
 - c) Improve the teaching facilities, slides, video etc.
 - d) To arrange In-service Dermatology Training Programmes.
 - e) Install an Institute of Dermatology with personnel.

19. Eric Ferdinand Pondaag, Indonesia 1987 - 88
 - a) On the job training laboratory personnel.
 - b) More discussion among my colleagues; concerning set on Dermatology.

20. Abdul Rafiq Sami, Pakistan 1985 - 86
 - a) Enthusiastic teaching to medical students to aware them of this speciality.
 - b) Conducting short courses for family physicians/general practitioners.
 - c) Providing the patients proper care for their dermatological problems.

21. Danilo M. Mactal, Philippines 1987 - 88
 - a) PUVA facilities/techniques.
 - b) Laboratory tests-facilities, techniques.
 - c) Facilities for skin biopsy, techniques.
 - d) Surgical techniques.

22. M. NatsirBorman, Indonesia 1987 - 88
 - a) Skin smear taking.
 - b) Direct examination for Mycology.
(scale examination by using KOH solution)

23. Thomas Anthony Delaney, Australia 1986 - 87
 - a) PUVA
 - b) Laser
 - c) Dermatologicalsurgery
 - d) Radiotherapy

24. Chandran Rajagopal, Malaysia 1986 - 87
 - a) We would appreciate if the Institute of Dermatology, Bangkok informs the relevant authorities i.e. chief Dermatologist, Ministry of Health Malaysia; President of the Dermatological Society of Malaysia etc. about the Diploma course being wonty of international recognition. This whould certainly go a long way to improve participants in Dermatological conferences and research.

25. Ong Too, Malaysia 1987 - 88
 - a) Continuous medical education in Dermatology.
 - b) Application of knowledge.
 - c) Therapeutic Dermatology.
 - d) Simple Dermatological procedures.

26. Abdul Mubarak Seenikatty, Malaysia 1986 - 87
 - a) Require to update if possible with a recognisable skin qualification locally to enable entry into local Dermatological society.
 - b) To be able to do basic skin investigations - confidently by ownself without much help from other personnel.
 - c) Time to participate in Seminars.
 - d) Practice methodological recording & data collection for presentation of papers and articles.

27. MA. Evylina G. Guzman, Philippines 1985 - 86
 - a) Immunofluorescence microscope

Questionnaire

To the Ex-Participants of the Third Country Training Programme
(Thai doctors)

III. Technical Problems and Difficulties

(2) Now or from now on what are the necessary techniques for you/your institute.

1. Vitit Banjong, Singburi Hospital 1985 - 86
 - a) Fungal culture lab.
 - b) Patch testing.
2. Suthep Pyrochpongpun, Saraburi Hospital 1984 - 85
 - a) Pathological lab.
3. Thanapol Chantrasawang, Udonthani Hospital 1986 - 87
 - a) Good lab.
 - b) Good dermatopathologist.
 - c) Good referral system to skin center.
4. Somkirt Mayurasakorn, Samutsakorn Hospital 1985 - 86
 - a) An experienced technician.
5. Usa Janjarussin, Chiang Rai Hospital 1986 - 87
 - a) Biopsy & fix the tissue in the slide.
6. Samran Tannapai, Nakorn Si Thammarat Hospital 1986 - 87
 - a) Dermatopathologist & Immunologist.
 - b) Mycobiology laboratory to confirm about fungal we found.
7. Chana Gunadham, Thang Hospital 1985 - 86
 - a) Dermatopathology interpretation.
 - b) Mycology lab.
 - c) Training of technician.
 - d) Further training in Dermatology.
8. Vasant Vongsinchai, Nakornchaisri Hospital Nakornpathom 1986 - 87
 - a) Instrumental equipment.

Questionnaire

To the Ex-Participants of the Third Country Training Programme

III. Technical Problems and Difficulties

(4) What do you consider are obvious obstacles in disseminating what you acquired in the course?

A. Lack of:

Because of the lack of recognition the rest does not have much meaning. Also because I am doing my own practice - The other factors are all arbitrarily dependent on my own personal interest with no limitations in our environment. Major obstacle at present seems to be the unhealthy attitude of other recognized dermatologists with the reluctant to consider me as a trained skin doctor and are accepting me only as a G.P. with intense for skin. After having been left alone to find for myself for my own solo practice, I now realize that for reasonable students theoretical knowledge is not difficult to acquire and needs own good reading material but clinic or expertise has to be taught and needs teaching. (Seenikatty)

B. Various constraints

- As mentioned earlier the main problem in recognition of the Diploma and disseminate to authorities about the quality of the course through proper channel. (Chandran)
- It will take sometime for the public to recognise my qualification and experience acquired from the Institute of Dermatology, Bangkok. (Ong Too)

Questionnaire

To the Ex-Participants of the Third Country Training Programme

IV. Others

(4) To improve the future programme of the course, please describe your frank comments and/or suggestions.

1. Palabyab, Philippines 1987 - 88

1.1 Participants should be well screened. May be the previous graduates can help in screening.

1.2 A continuing training programme in dermatology should encourage especially in the sub-specialty.

1.3 There should be some workshops on the establishment of a National Dermatological Institute.

2. Natanael Shem, Indonesia 1986 - 87

I hope to have another training at advanced level such as Dermatohistopathology, Mycology, Immunology, Photobiology or Contact Clinic etc.

3. Benoy B. Bhowmik, India 1985 - 86

3.1 All the atypical and academically interested cases of the O.P.D. may be shown to all the students and shortly discussed.

3.2 Practical part of the training should be given more importance i.e. Biopsy taking and staining, chemical therapy, minor surgery etc.

3.3 Training for S.T.D. is insufficient as it is a part of Dermatology.

4. A.K.B. Zaman, Bangladesh 1985 - 86

4.1 The duration of the Third Country training programme may kindly be extended for another 10 months for M.S. course.

4.2 The new participant may complete the Diploma Course in 10 months if any one like so. Others can complete the M.S. course for another 10 months.

- 4.3 The ex-participants should have the scope for participating for 10 months more for M.S. course.
 - 4.4 The ex-participants should be favoured with M.S. course on seniority basis.
 - 4.5 I do believe the frank opinions and suggestions mentioned above should be a great help for solving dermatological problems in Asia.
5. Ashok Kumar Chaurasia, Nepal 1986 - 87
 - 5.1 As we, in O.P.D., are working with the help of Thai students, they should be helpful to us to ask the complain of the patient. Of course most of them are good, but some are not so good.
 - 5.2 In lecture not only research articles, but also the common skin diseases should be included with etiology, pathogenesis, clinical feature, treatment, diagnosis, prognosis etc.
6. MD. Shahid Ullah, Bangladesh 1984 - 85

Diploma course should be improved upto advanced level like Master and Ph.D. course.
7. Mrs. Kunaranjitham Kugadas, Sri Lanka 1985 - 86

Must spend more time on the clinical aspects. Must have clinical demonstration and teach about disease in detail.
I am still grateful to you and your Diploma Course.
8. Chandana J. Wijekoon, Sri Lanka 1987 - 88
 - 8.1 More exposure to practical procedures.
 - 8.2 More exposure to management of indoor patients.
 - 8.3 More independence for each participant at O.P.D.
During our course we had to depend to much on Thai participants at O.P.D. in obtaining clinical histories.
More independent method like employing a nurse to translate - would be more beneficial for the foreign participants.

9. Wan Junzeng, China 1986 - 87

Supply perfect teaching material from Japanese teaching.

10. Mangal C. Jain, Nepal 1986 - 87

To improve the future programme of the course, it needs advance training in Histopathology, Contact clinic, Immunology as well as Photochemotherapy.

11. Mrs. Nanda D. Seneviratne, Sri Lanka 1987 - 88

The organizations should have direct contact with the Ministry of Health and indicate to them the standard and the value of this type of Training and to make sure the proper selection of participants to the course. The course should include more practical skills aspects.

12. Chang Xiao-Min, China 1987 - 88

After course some excellent students continue at your department to study for special training, so train expert.

13. Abdul Azeez, Maldives 1987 - 88

13.1 Can save the time spent on histopathology and mycology lab. Since we are not able to utilize that knowledge.

13.2 May utilize that time on some practical work like centerisation and active management of in-patients, or improve therapy knowledge by Journal work.

14. Yu Bao Tian, China 1984 - 85

14.1 I hope I will have a opportunity to go to Japan or another country on a tour of dermatologic investigation.

14.2 Training more sexually transmitted disease and less leprosy.

15. Janak Kumar Shrestha, Nepal 1986 - 87

15.1 Inclusions of more practical dermatology

15.2 More of O.P.D., I.P.D. sessions.

16. Sun Qiuning, China 1987 - 88

I really got a lot of from this course and I am very thankful for everything. I suggest that you will give the doctors (attending this course) application of information earlier so that they will prepare well in English.

17. Zhao Tian-En, China 1985 - 86
 - 17.1 The I.P.D. should be increased.
 - 17.2 The clinic pathology should be strengthened.

18. Bimala Ojha, Nepal 1984 - 85
 - 18.1 Candidate for the diploma course must have worked in the dept. of dermatology under supervision of a senior dermatologist for about three years.
 - 18.2 More attention to clinical side.
 - 18.3 Minor surgical procedures should be taught.

19. Lt. Col. Md. Nural Amin, Bangladesh 1986 - 87
 - 19.1 Dermatological Surgery and Indoor patient management should be included.
 - 19.2 Genetics should be included in the topics.
 - 19.3 Other subdivision of Dematology should be given the equal importance as Mycology.
 - 19.4 More staffs are required for O.P.D. management
 - 19.5 Practical application should be more than theoretical lectures.

20. Herman Cipto, Indonesia 1987 - 88

Please consider to give the programme that are appropriate and applicable to the developing countries.

21. L. Chintha Perera, Sri Lanka 1986 - 87
 - 21.1 Add one month's cosmatology course.
 - 21.2 A trip to Japan to see dermatological conditions there.
 - 21.3 Refresher courses (one month or so) for the participants once in 10 years or so.

22. Agha Masood Choudhury, Bangladesh 1984 - 85
 - 22.1 12 months course.
 - 22.2 Increasing O.P.D. class.

23. Eric F. Pondaag, Indonesia 1987 - 88
 - 23.1 More field work (increase in number of field trips)
 - 23.2 A training (short course) in Reconstructive Surgery for Rehabilitating Leprosy cases.

24. Abdul Rafiq Sami, Pakistan 1985 - 86
Expose the students to Inpatient Department of the Institute with the introduction of long case in the final evaluation.
25. Danilo M. Mactal, Philippines 1987 - 88
Please continue bringing in foreign experts since they are the authorities in the field and much could be gained from them. Thank you and regards to all.
26. M. Natsir Borman, Indonesia 1987 - 88
Prolong the course up till 12 month duration in which the last 2 month focus on O.P.D. and practical treatment of Dermatology.
27. Thomas Anthony Delaney, Australia 1986 - 87
 - 27.1 More critical assessment of candidates on passing the diploma.
 - 27.2 1 week or so on pharmacology, preparation of topical medicaments.
 - 27.3 Otherwise on excellent course.
28. Chandran Rajagopal, Malaysia 1986 - 87
 - 28.1 Participants should be involved in inpatient management techniques through ward works and bedside teaching.
 - 28.2 Invite senior dermatologists from participating countries to observe how the courses are conducted.
29. Ong Too, Malaysia 1987 - 88
The course should be more clinical and practical orientated as most of the participants are practicing clinicians who need lot of guidance in this respect.
30. Abdul Mubarak Seenikatty, Malaysia 1986 - 87
 - 30.1 I have noticed that inspite of sufficient clinical material available, the clinical training was inadequate at least for me. There is excellent opportunity for better discussion and upgrading clinical acumen at the level of the O.P.D. where students must actively involve with discussion pattern than wait for seminars only.

- 30.2 In patient management training for foreign students is not sufficient. Ward rounds must be more active and more universally participated by students. I myself now look forward to grand general rounds in the local general Hospital because it gives me a good opportunity to test myself.
- 30.3 Our pathology training is excellent. In my discussion with local colleagues, I find my pathology standard is of good standing. I feel our pathology can even do better with more active student: student participation together with the Board exam.
- 30.4 Basic training in biopsy and other surgical procedures in the minor O.R. could be made a compulsory training and students assisted on "Rotation" to work in it.
- 30.5 English as the medium of instruction should not be a teach gap for either local or foreign students. And foreign students should have basic lessons in Thai in an orientation programme possibly conducted on weekends made compulsory at least for 3 months at the starting of the course.
- 30.6 Basic training in Dermatology from a recognized institute must be made a compulsory pre-requisite for Admission; otherwise the disparity in student standards and the difficulty in planning the programme becomes very evident.
- 30.7 We have an excellent environment and excellent material and without doubt dedicated and competent teachers.
- 30.8 I am sure with your motivation and organising ability "Dear Director" the Institute of Dermatology will shine on a "Beacon" of light in Dermatology for the for ever. With warming regards to all of you.

31. Muttaiyah R. Pillay, Malaysia 1985 - 86

I attended the diploma course in 1985 and I am the first and the only Malaysian in the batch. Since then within 2 years, I think about 5 have been trained from the institute. From this 4 are from my state of Perak, out of which 3 are from my town alone. I think in the present batch also one candidate is again from Perak.

There is a talk that our town will be flooded with Bangkok trained dermatologist. Although the course is also available in London at St. John's Institute of Dermatology for many years, there are only 3 dermatologist trained from that institute are in my state.

All those trained from our Institute of Dermatology at Bangkok are only private paying candidates and none from those working in Government Hospitals, University of Malaysia.

Some in our country has the impression that the course is easy and not up to the standard and anyone who goes there can come back with the diploma. I hope the standard is being maintained and the passing of the course is not that easy.

I understand the course is started to help the developing countries, if the interest is sincere, then the selection should be restricted and evenly distributed through out the country. We have 13 states and 1 Federal territory.

To improve the image, Government candidates with enough dermatological training has to be taken in, not paying candidates with no proper dermatological training.

Malaysia is a country with a small population and we are easily noted. As far as Malaysia is concerned to have a good impression of the course in Bangkok and get it recognised by Malaysian government and people certain steps has to be taken.

- 1) Government trained doctors with required dermatological training must be selected.
- 2) General Practitioners with no training in dermatology should not be taken.
- 3) Selection of candidates not more than 1 or 2 per year and that also deserving candidates.

- 4) Selection of candidates should be evenly distributed throughout the country especially general practitioners.
- 5) Only deserving candidates must get the diploma.
- 6) If private candidates has to be taken for financial reasons, then those who have not had training in dermatology should be allowed to attend at least 3 months training in dermatology and deserving candidates should be allowed to attend the diploma course later.
- 7) Institute of Dermatology has to write to the Malaysian Medical Council (Ministry of Health) explaining in detail of the course and get it recognised. As present since it is not recognised we could not get attached to government services, as a dermatologist.

These are my personal suggestions so that we can be proud of our training and not shy to tell we are trained in the Institute of Dermatology, Bangkok.

32. MA. Evelylna G. Guzman, Philippines 1985 - 86

Based on my experience 1985 - 1986 these are my suggestions:

- 32.1 To have regular round in the I.P.D. together with the consultant and to discuss the discussion in English.
- 32.2 To have a close communication with the past graduates by sending their the latest journals or articles so as to update them as the new management and experiment in dermatology. We are willing to pay the necessary expenditure increased.
- 32.3 To give refresher course or advances level of various dermatology courses - yearly or short course
 - a) Histopathology
 - b) Immunology
 - c) Photobiology
 - d) Contact Dermatitis
 - e) Mycology

I say personally that my diploma course has helped me a lot.

Questionnaire

To the Ex-Participants of the Third Country Training Programme
(From Thai Doctor)

IV. Others

(4) To improve the future programme of the course, please describe your frank comments and/or suggestions.

1. Vitit Banjong, Singburi Hospital 1985 - 86

I would like to have more lectures on Eczematous eruption both on basic sciences and clinical grounds.

2. Thanapol Chantrasawang, Udonthani Hospital 1986 - 87

The future programme should be recognised in other countries too. And as one year academic should be equivalent to one year residency training.

3. Pairoj Vongvitavat, Pak Panang Hospital, Nakhon Sri Thammaraj
1987 - 88

3.1 The programme of the course is very good.

3.2 But the duration of training in Japan is quite short, it should be longer period not only 15 days.

4. Chana Gunadham, Trang Hospital 1985 - 86

The course should be extended to 12 months. Ten months for the actual course and the other 2 month period is for practices in the Institute for their own skills.

5. Tawansook Chaisupakitsin, Damnoensaduak Hospital; Ratchaburi
1987 - 88

5.1 There should be special further training course for Thai doctors in order to be qualified as "Board doctors". Because board qualification is better recognized in Thailand.

5.2 Anyway, the 4th Diploma Course which I have attended was very nice and very useful.

6. Vasant Vongsinchai, Nakornchaisri Hospital, Nakorn Pathom
1986 - 87

Please decrease lectures from Japanese Professor. It's too advanced to understand and make use of it, just in the wind, theoretically. For ten month study, it can cause brain damage by no means.

Emphasize understanding among the ex-participants along with knowledge. Friendship will be more important in the future than knowledge which we can always get from only textbook.

コース終了時のアンケート結果集計(抜粋)

1. 全体評価

| | | |
|--|----|---------|
| (1) well planned | 75 | (92.6%) |
| (2) too basic | 1 | (1.2%) |
| (3) too complicated | 1 | (1.2%) |
| (4) does not meet your objective | 4 | (4.9%) |

2. 期間

| | | |
|---------------------|----|---------|
| (1) too long | 7 | (8.4%) |
| (2) suitable | 72 | (86.7%) |
| (3) too short | 4 | (4.8%) |

3. 講師に対する評価

| | | |
|----------------------|----|---------|
| (1) Excellent | 35 | (41.7%) |
| (2) Good | 44 | (52.4%) |
| (3) Fair | 4 | (4.8%) |
| (4) Poor | 0 | |
| (5) no comment | 1 | (1.2%) |

4. 期待した課目を網羅していたか。

| | | |
|----------------------|----|---------|
| (1) Yes | 65 | (77.4%) |
| (2) No | 16 | (19.0%) |
| (3) no comment | 3 | (3.6%) |

アンケート回答者；84名(プライベート参加者を含む)

Equipments requested for 5th Diploma Course in Dermatology

1. Solar Simulator
2. CO₂ incubator
3. Safety cabinet vertical air flow, biohazard
4. Storage freezer (-20°C to -30°C)
5. 5.1 Recorder
- 5.2 Peristaltic pump
- 5.3 Fraction collector
6. Fisher centrifuge
7. Electrophoresis unit c Power supply

November 1, 1988

Equipments requested for 6th Diploma Course in Dermatology

1. Cell separation centrifuge (computer control)
2. Cell counter (for white cell and platelets)
3. Equipments for AIDS investigations

November 1, 1988

Field of Japanese Expert requested for 6th Diploma Course in Dermatology

1. Biochemistry
2. Photobiology
3. Electron Microscopy
4. Immunology and Contact Dermatitis
5. Pigmentary Disorders
6. STD & AIDS
7. Primary Health Care in Dermatology
8. Histopathology
9. Cell and Organ Culture

November 1, 1988

Fellowships requested

1. Short-term fellowship (3 months) for doctors & technicians in some subspecialities.

November 1, 1988

Sponsorship requested

1. Field trip for primary health care.

November 1, 1988

THAI AID PROGRAMME
GROUP TRAINING COURSES IN 1988/1989

Group Training Course are organized to cover those fields which are of essential to the national development, especially in regards to the rural development. The training is conducted under the pre-arranged training programmes for up to 20 participants in each course in the following fields:

- 0 1. Rice Cultivation Technique and Extension
(October 31 - December 23, 1988)
- Department of Agriculture, Ministry of Agriculture and Cooperatives.
- 2. Agricultural Extension and Communication
(October 31 - December 9, 1988)
- Extension and Training Centre, Kasetsart University.
- 3. Community Health Nursing and Primary Health Care
(November 7, 1988 - January 29, 1989)
- Faculty of Nursing, Chiang Mai University
- X 4. Production Management
(November 21 - December 16, 1988)
- Department of Industrial Promotion, Ministry of Industry.
- 0 5. Telecommunication Technology
(January - March 1989)
- Faculty of Engineering, King Mongkut's Institute of Technology
- 6. Agricultural Mechanization
(March - April 1989)
- Agricultural Engineering Training Centre,
Department of Vocational Education

7. Nursing (Midwifery)
(March - May 1989)
- Faculty of Nursing, Chiang Mai University
- 0 8. Community Forestry Development Techniques/Social
Forestry
(April - May 1989)
- Royal Forestry Department, Ministry of Agriculture
and Cooperatives
9. Swamp Buffalo Reproduction
(April - May 1989)
- Faculty of Veterinary Sciences, Chulalongkorn
University
- 0 10. Diploma Course in Dermatology
(April 1989 - February 1990)
- Institute of Dermatology, Department of Medical
Services
- X 11. General Management, Extension and Consultancy
(May 22 - June 30, 1989)
- Department of Industrial Promotion, Ministry of
Industry
12. Community Maternal and Child Health Nursing
(June - September 1989)
- Faculty of Nursing, Khon Kaen University
13. Plant Protection Services
(June - August 1989)
- Department of Agricultural Extension,
Ministry of Agriculture and Cooperatives

14. Community and Rural Development
(July - September 1989)
 - The Office of Accelerated Rural Development/
Community Development Department,
Ministry of Interior.

- 0 15. Master of Primary Health Care Management
(August 1989 - June 1990)
 - ASEAN Training Centre for Primary Health Care,
Mahidol University

16. Rural Industrialization and Project Cycle
(August 28 - September 29, 1989)
 - Department of Industrial Promotion,
Ministry of Industry.

0 : 日本との共同実施案件

X : オランダとの "

.....

November, 1988

รายชื่อประเทศภายใต้โครงการความช่วยเหลือของไทย

List of Countries under Thai Aid Programme

ก. ประเทศที่ได้รับความช่วยเหลือทั้งหมดจากไทย

A. Fully-funded

1. กินี (Guinea)
2. สาธารณรัฐเกาหลี (Republic of Korea)
3. คีนยา (Kenya)
4. ซามัวตะวันตก (Western Samoa)
5. ซูดาน (Sudan)
6. เซเนกัล (Senegal)
7. หมู่เกาะโซโลมอน (Solomon Islands)
8. แทนซาเนีย (Tanzania)
9. เนปาล (Nepal)
10. ไนจีเรีย (Nigeria)
11. ไนเจอร์ (Niger)
12. บังกลาเทศ (Bangladesh)
13. บรูไน (Brunei)
14. ปากีสถาน (Pakistan)
15. ปาปัวนิวกินี (Papua New Guinea)
16. พม่า (Burma)
17. ฟีจี (Fiji)
18. ภูฏาน (Bhutan)
19. มาลี (Mali)
20. มอริเชียส (Mauritius)
21. ลาว (Laos)
22. ไลบีเรีย (Liberia)
23. วานูอาตู (Vanuatu)
24. ศรีลังกา (Sri Lanka)
25. อินโดนีเซีย (Indonesia)
26. อิหร่าน (Iran)
27. จีน (People's Republic of China)
28. มัลดีฟส์ (Maldives)
29. สิงคโปร์ (Singapore)

ข. ประเทศที่ออกเฉพาะค่าเดินทางระหว่าง

ประเทศเอง (รายการอื่นประเทศไทยจ่าย)

B. Partially-funded (exclusive of international airfares)

1. กาตาร์ (Qatar)
2. คูเวต (Kuwait)
3. จอร์แดน (Jordan)
4. ซาอุดีอาระเบีย (Saudi Arabia)
5. บาห์เรน (Bahrain)
6. ฟิลิปปินส์ (the Philippines)
7. มาเลเซีย (Malaysia)
8. สหรัฐอาหรับ (United Arab Emirates)
9. โอมาน (Oman)

ฝ่ายความช่วยเหลือของไทย

กรมวิเทศสหการ

Thai Aid Sub-Division

DTEC

June , 1987

1. 実施報告

- (1) 経緯：短期間の本邦における研修により，第三国研修をより充実させる試みとして，昭和63年度の本件皮膚病コースにおいて本邦研修が実施された。（他にフィジー電気通信）
- 本件皮膚病コースの目的は，アジア・太平洋地域の皮膚病専門医に対し，皮膚病の治療及び研究に必要な知識と手法を教授し，同地域における皮膚病学の発展に貢献することであり，研修生は帰国後，各国における本分野の草分けとして活躍することが期待される。
- かかる目的遂行のため，昨年度の本邦研修では，タイ国においては十分経験できない先進国における近代的医療機関の視察，医学部の第一線の医師多数を交えた症例検討会等が行われ，研修生からは病院の組織管理体制，医療従事者の心構え，本格的な研究機関の雰囲気が学べたと高く評価された。
- 2回目の今年度は，昨年度のファイナルレポート，評価会でのヒアリングの結果に基づき，より研修員のニーズに合わせる形での本邦研修を企画，実施することとなった。
- (2) 実施期間：昭和63年8月21日～9月4日（15日間）
- (3) 受入先：順天堂大学，日本大学，名古屋市立大学，順天堂浦安病院，越谷市立病院
- (4) 目的：タイ皮膚病研究所において，アジア・太平洋地域の皮膚科専門医を養成する。本邦研修は，タイでは十分経験できない近代医療機関の視察，本格的症例検討会（ワークショップ）等を行い，第三国研修の一層の充実を図る。
- (5) 昨年度の反省に基づくスケジュール上の改善点
- ① 地方の第1次健康管理体制，一般の病院での診察・治療現場を見たいとの要望が多かったことを受け，越谷病院，浦安病院を付け加えた。
 - ② 一部より講義レベルが高すぎる，臨床例をもっと多くしてほしいとの意見があったことを受け，臨床例を大巾に増やし複数の日本人医師を交えた多角的な症例検討会（ワークショップ）を延べ4日間設けた。
- (6) 評価：別添の General Evaluation Sheet にもあらわれている通り，研修員の研修内容（課目，レベル，etc）に対する評価は相当に高く，今回は昨年度よりも内容的により充実したものと判断できる。一方，患者と接する機会が増えたのに言葉の問題があり十分コミュニケーションできなかつたとか，回診時人数が多すぎて何もきこえず，見えずの者がいたなどさらに改善すべき点である。

2. 提言

第三国研修における本邦研修の活用は昨年度より始められたばかりで，その技術研修としての効果については未だ十分に情報が蓄積されていない。また，予算枠の限られた現状においては，数多い研修コースの中で不公平にならぬよう本邦研修の機会を均等に分配するべきだとの議論もある。また，技術研修としての効果をさほど期待せず，各国研修性と日本との親睦を深

める効果を重視する見方もある。

かかる状況において、本件皮膚病コースにおいて2カ年度連続して本邦研修を取り入れたことは、第三国研修における本邦研修の位置付けを明確にし、今後の有効な実施方法を模索する上で一つの注目すべき試行である。

前回、今回共にコースをアレンジして頂いた各大学の教官陣は、この本邦研修を短期間ではあるが飽くまで技術研修であるとの認識に立っており、研修生が母国へ帰った後も即活用できる分野を第1優先させてプランニングして頂いてきた。その結果が今回の内容に見られる通りの充実した症例検討会であり、講義における臨床例の多用であり、日本の一般病院の見学である。今回、研修生から、前回よりも増して本邦研修に対する高い評価が得られたことは技術研修としての本件皮膚病コースに対する本邦研修の効果が支持されたものと結論できる。

ついでに、①本件皮膚病コースは10カ月の長期コースであり、日本での研修をカリキュラムに加えることにより第三国研修本来のメリット（特に地域性）を低減させないこと、②医療という分野では、医療レベルの高低を問わず医療従事者に求められる素養（患者への態度、研究態度 etc）は共通しており、先進医療技術を誇る日本において、また日本国内のレベルの異なる医療機関において、その共通した雰囲気を感じることが有意義であること、③過去2回のデータを基に、来年度はさらに充実した本邦研修が予想されること、等の理由により、本件皮膚病コースに過去2回と同規模の本邦研修を常設することを提言する。

タイ第三国研修(皮膚病)本邦研修参加研修員リスト

研修期間 昭和63年8月21日～昭和63年9月4日(15日間)

研修員氏名, 国籍, 現職, 生年月日

1. Mr. Sardar Ghulam Murtaza(33) (バングラデシュ) 1. Jan. 1955
Medical Specialist, Government of Health Services
2. Mr. Mohammed Shah Newaz(32) (バングラデシュ) 1. Jan. 1956
Medical Officer, Medical College Hospital
3. Mr. MD. Mahbubul Insan(34) (バングラデシュ) 18. Fed. 1954
Medical Officer, Govt Hospital and College
4. Miss. Chen Xiu Qin(25) (中国) 17. Jan. 1963
Charge-in Doctor, People's Hospital
5. Mrs. Wang Yu-Ying(32) (中国) 27. Jul. 1956
Charge-in Doctor, Third Teaching Hospital
6. Mr. Gu Heng(28) (中国) 6. May. 1960
Resident Doctor, Institute of Dermatology
7. Mrs. Zhang Xiaoqiong(28) (中国) 29. Apr. 1960
Resident Doctor, China-Japan Friendship Hospital
8. Mr. Prabowo Endropranoto(43) (インドネシア) 25. Fed. 1945
Staff, Department of Dermatology and Venerology
9. Mrs. Arunima Shrestha(41) (ネパール) 20. Fed. 1947
Medical Officer, Bir Hospital
10. Mr. Muhammed Akhtar Hussain(40) (パキスタン) 25. Nov. 1947
Medical Officer, Pakistan Institute of Medical Sciences
11. Ms. Imelda A De Luna(29) (フィリピン) 2. Mar. 1959
Resident Physician, Philippine Medical Association
12. Mr. Tiotam Towarpuai(31) (P・N・G) 16. Sep. 1957
Dermatology Registrar, Health Department
13. Mr. Sudhat Duangdeeden(27) (タイ) 22. Aug. 1960
Medical Officer, Ban Mi General Hospital
14. Mr. Thaval Poblap(35) (タイ) 8. Mar. 1953
Medical Officer, Kamphaeng Sean Community Hospital
15. Miss. Walai-Orn Prachyapruit(26) (タイ) 30. Sep. 1961
Medical Officer, Saraphi Community Hospital
16. Mr. Chatchaval Sirinirundr(37) (タイ) 20. Jul. 1951
Medical Officer, Chiangmai General Hospital
17. Mrs. Sirirat Suwantarroj(34) (タイ) 5. Jul. 1954
Medical Officer, Krabi General Hospital
18. Mr. Bunchai Tangsaghasaksri(27) (タイ) 1. Nov. 1960
Medical Officer, Krathum Baen Community Hospital
19. Mr. Nivat Thiengtham(31) (タイ) 27. Aug. 1956
Medical Officer, Kamphaeng Phet General Hospital

同行者氏名, 現職

1. Mr. Harn Wongwaisayawan(36) (タイ) 10. Nov. 1951
Medical Officer, Department of Medical Services,
Institute of Dermatology
2. Mr. Seree Parntong(49) (タイ) 23. Sep. 1938
Officer, Department of Technical and Economic
Cooperation, DTEC

○タイ第三国集団研修（皮膚病学）本邦研修スケジュール

研修期間 昭和63年8月21日-昭和63年9月4日

| | 場所または行程 | 月 日 | 曜日 | 時 刻 | 研 修 内 容 | 通訳率 (%) | 講師または見学先担当者等 | | | 使用テキスト テキスト名 |
|----|----------------|------|----|----------------|------------------------|------------|--------------|---------------|-------------------|-----------------|
| | | | | | | | 氏 名 | 所属先及び官職 | TEL | |
| | | 8/21 | 日 | | 来日 | | | | | |
| | TIC | 22 | 月 | 10:00 14:00 | プリ-フィンク | | | | | |
| | JICA | 22 | " | 16:00 17:30 | コースオリエンテーション JICA表敬 | 0 | 村岡敬一 | JICA 研修管理課 | 346- 5139 | |
| 講 | 日大医学部 | 23 | 火 | | OPD & Derm Lab | 0 | 鈴木啓之 | 医学部 皮膚科助教授 | 972- 8111・2501 | |
| " | " | 23 | " | 13:00 17:00 | " | | " | " | " | |
| 見学 | " | 24 | 水 | 10:00 12:00 | 病院見学 | 50 | " | " | " | |
| | 東京→名古屋 | 24 | " | 9:00 | 移動 | | | | | |
| 講 | 名古屋市立大学 | 25 | 木 | | 皮膚病学 | 0 | 水野 寛 | 医学部 皮膚科教授 | 052-851 5511 | |
| " | " | 25 | " | 13:00 17:00 | OPD | 0 | " | " | | |
| " | " | 26 | 金 | 9:30 12:00 | Derm Lab | 0 | " | " | | |
| 見学 | " | 26 | " | 13:00 17:00 | 院内見学 | 100 | " | " | | 現地で配布 |
| | 名古屋→京都 | 27 | 土 | | 移動 | | | | | |
| | 京都市内 | 27 | " | | フリー | | | | | |
| | " | 28 | 日 | | " | | | | | |
| | 京都→東京 | 29 | 月 | | 移動 | | | | | |
| | 順天堂大学 | 29 | " | 13:00 15:30 | オリエンテーション | 0 | 小川秀興 | 医学部 皮膚科教授 | 813- 3111・3247 | |
| 講 | " | 30 | 火 | 10:00 12:00 | 皮膚病 | 0 | " | | | |
| " | " | 30 | " | 13:00 17:00 | " | 0 | " | | | |
| " | " | 31 | 水 | 10:50 | OPD & Derm Lab | 50 | " | | | |
| " | 順天堂大学 浦安病院 | 31 | " | 13:00 17:00 | 病院見学 | 0 | " | | | |
| 見学 | 越谷市立病院 | 9/ 1 | 木 | 10:00 12:00 | 病院見学 | 100 | | | | |
| " | エーザイ 衛生研究所 | 1 | " | 14:00 17:00 | 製薬会社研究所見学 | 100 | 加納則夫 | エイザイ財 病院 | | |
| | 順天堂大学 | 2 | 金 | 10:00 :00 | ディスカッション | | | | | |
| | TIC | 2 | " | 16:00 17:00 | 評価会 | | | | | |
| | " | 2 | " | | 閉講式 閉講パーティ | | 村岡敬一 | JICA 研修管理課 | 346- 5139 | |
| | 後楽園 グリーンホテル | 3 | 土 | | 帰国準備 | | | | | |
| | | 4 | 日 | | 雑日 | | | | | |

GENERAL EVALUATION SHEET

NAME OF PARTICIPANT : _____

NATIONALITY: _____

Please tick those boxes one in each of the sections (a) to (e), and, in appropriate cases, the boxes in (f).

In all cases the boxes ticked should be those which correspond most nearly to your views on the suitability of the study/training given.

(a) Subjects

| | |
|----|---------------------|
| 1 | Coverage too broad |
| 17 | Coverage just right |
| | Coverage incomplete |
| 1 | No. Answer |

(b) Level

| | |
|----|----------------|
| 1 | Too advanced |
| 17 | Just right |
| | Too elementary |
| 1 | No Answer |

(c) Clarity of lectures

| | |
|----|---------------------|
| 5 | Very clear |
| 13 | Adequate |
| | Difficult to follow |
| 1 | No Answer |

(d) Treatment

| | |
|----|------------------------|
| 2 | Not enough practical |
| 16 | Just right |
| 1 | Not enough theoretical |
| 1 | No Answer |

(e) Duration

| | |
|----|------------|
| 5 | Too short |
| 14 | Just right |
| | Too long |
| | No Answer |

(f) Others

| | |
|----|----------------------------|
| 8 | Language problems |
| 2 | Background of participants |
| | Too diversified |
| 1 | Little applicability |
| 10 | No Answer |

This sheet is supplementary for the Final Report.

| 氏 名 | 2-評価理由 | 3-改善点 | 4-A 将来の抱負 | 4-B JICAへの要望 |
|---|--|---|---|---|
| 1) Mr. Sardar Ghulam Mortaza バングラデシュ | この2週間で最新技術を見ることができた。特に電子顕微鏡、蛍光抗体法、Phosobia-logy 及び皮膚外科などの講義は有益だった。順天堂、日大、名古屋市大などの著名な先生方の講義、ワークショップそして形成外科の話はとてもよい情報を提供してくれた。 | 期間がとても短かったということ以外は、何の問題もなかった。 | 皮膚病の診断及び調査の分野で働く予定である。 又、皮膚病の様々な面の研究活動にも強い興味を持っている。 | 私を皮膚病学、特に臨床皮膚病学及び皮膚病学の分野での Research fellow に選んで欲しい。 |
| 2) Mr. Mo. Shah Newaz バングラデシュ | 順天堂浦安病院、越ヶ谷市立病院では診断及び病院の管理システムなどがよく整っているのがわかった。 自由時間はコースを続けるための活力をとり戻すため有効であった。 | 記載なし | 同 左 | 同 左 |
| 3) Mr. MD. Mahbobul Insan バングラデシュ | ☆施設管理注 バングラデシュの3名は互いにコピーしあったものと思われ内容は全く同一です。 | | | |
| 4) Miss Chen Xiu Qin 中 国 | 日大での講義は素晴らしい。 順天堂大学では研究活動のいくつかを紹介してくれたが、どういう方法で新しい知識を得ていくのかということを知る上でとても役立つ。 | 特に問題を点はなかった。ただ transportation は問題だと思った。私たちの滞在はとても短いだから。しかし JICA から派遣されたコーディネーターはとても親切で彼女の責任をよく果たしていた。 | この2週間の滞在で日本人の皮膚病学者たちがどういふ働き方をするか学んだ。そして日本がどうしてこんなに発展したのかもわかった。 だから私は国へ帰ってわが国の発展のために一生懸命研究し、働こうと思う。 | 今後とも JICA とのつながりを保ちたい。又、機会があれば日本でもっと勉強し、知識を深めたい。 |
| 5) Mrs. Wang Yu-Ying 中 国 | この2週間は私に最新の診断、治療の技術を見る機会をある程度まで与えてくれた。特に電子顕微鏡、蛍光抗体法、Photobiology 皮膚外科学、形成外科などが有用である。 浦安病院は近代的でとてもよく管理運営されていた。 | 何も問題はなかった。すべてが順調に進んでいた。 | 私の働いている病院では日本で見たような近代的な設備を持っていないので日本で得た知識を活用できるかどうか私には確信がないが何とかそれを活かすように努力したいとおもう。 | 私に日本を訪問し、又、日本の偉大な発展を見る機会を与えて下さった JICA に心から感謝する。 |

| 氏名 | 2-評価理由 | 3-改善点 | 4-A 将来の抱負 | 4-B JICAへの要望 |
|--|--|--|---|---|
| 6) Mr. Gu Heng 中国 | 日大、順天堂、名古屋市立で先生方はそれぞれ素晴らしい講義をしてください。 名古屋市大では皮膚病の効果的な治療法を紹介してください。 | たった一つの問題は何の transportation の手段も供されないうまま、度々一つの町から別の町へと移動しなければならないことであった。 | Miss Chen Xiu Qin と全く同文 | JICAは私たちのことを忘れず、今後とも日本であろうと他のどこであろうと研修する機会を与えて下さい。 |
| 7) Mrs. Zhang Xiaoqiong 中国 | この14日間、いくつかの大学、病院、会社を訪問した。又観光した。とても楽しかったし、日本も日本人も好きになった。どこの場所も滞在時間がとても短かく充分楽しめなかったので評価では全部'B'にしたけれど、'A'とすべきだったかもしれない。短い期間だったけれど、細胞培養、組織培養その他いろいろ学べた。 | 2週間は短かすぎた。私はあちこちに急いで移動しなくてはならず疲れてしまっ、講義など集中できなかった。意志の強い人はともかく私のような人間はいつも眠くなってしまい講義自体はすばらしかったにも拘らず充分堪能できなかった。 | 私は皮膚科のレジデントだが、国へ帰ったら免疫学も勉強したいと思っている。帰国したらしばらく皮膚免疫学を学び、その後日本で免疫学を勉強できたらよいと願っている。 | JICAの援助に大変感謝している。人類の保健促進のため私の知識を使いたい。今後共私の知識を向上させるための機会を与えて下さい。 |
| 8) Mr. Prabowo Endropranoto インドネシア | 全体のプログラムはよかった。研修の手法、教材設備などよく準備されていた。期間も適当であった。休憩、食事の時間などもワークショップ、討議などとの兼合がよくとれていた。宿舎もまあまあ良かった。 | なにも問題なし | 私がここで得た知識はとても有益であり、帰国してから治療、研究、検査などのいろいろな面での考え方や管理の改善に役立たせられる。 日本で得た経験はどれも貴重である。 | JICAが我々にもっと幅広い情報を与え、又、わが国からもっと研修員を受け入れてくれるよう要望します。 |
| 9) Mrs. Aronima Shrestha ネパール | 中国 Mrs. Wang Yu-Ying と全く同文 | 同 左 | 同 左 | 同 左 |
| 10) Mr. Md. Akhtar Hussain パキスタン | 中国の Mrs. Wang Yu-Ying と同文 | 同 左 | タイに戻ってこの皮膚病学の Diploma Conase の第二学期を続けたい。 | 特になし |

| 氏名 | 2-評価理由 | 3-改善点 | 4-A 将来の抱負 | 4-B JICAへの要望 |
|---|---|--|--|--|
| 11) Ms. Imelda A De Luna フィリピン | 訪問した病院、大学どれもよかった。診断治療、入院施設などよく整備されていた。医師たちは同僚や仲間たちと経験や知識をわかち合っていた。いろいろな事がよく計画されていた。機械、検査室図書、コンピューター等の設備も整っていた。 | 言葉の壁が多少あったがこれも通訳がうまくさばってくれた。研究活動がどう行われているかよく理解でき、今後の研究活動の展望をいったような講義もよく理解できた。 | 日本で見た、簡単な早い診断を下すための最新の機器は我が国にはない。日本が我が国がこういうものを持つよう援助して下されば医学の進歩や患者のために大いに役立つであろう。 | 公立病院で最新の機器を持てるように援助して下さい。 |
| 12) Mr. Tiotam Towarpuai P. N. G | TICのブリーフィングは食事、交通、日本の習慣などに関する情報を提供してくれてよかった。 各大学での講義は私たちが今まで教えられてきたことと密接に結びついていたし、タイでは見ることができなかった機械なども実際にみることができ、多少抱いていた疑問も解くことができた。 | 重い荷物を持って一つの市から別の市への移動は特に大変だった。電車を荷物を持って乗り換えるようなことがあるなどという注意を前もって受け付けていなかった。 | 国へ帰ったらこのコースで学んだことを最大限に活かして皮膚科医として働きたい。ただ我が国の現状(設備の不足など)や経験などを考えると、私が出来ることとはとても限界があるだろうが。 | 私たちが帰国してからもJICAは私たちのことを忘れず、私たちの国の発展をバックアップして頂きたい。又更に研修する機会を与えて下さい。 |
| 13) Mr. Sudhat Duangdeeden タイ | 研修は講師の先生達がよく説明してくれたし、プログラムもよくたてられていてよかった。設備がよく整っていて、図書なども揃っているなど、教育の効果が上がるだろう(後半は大学などの印象か?) | 何も問題なかった。いろいろな機械、設備実験etc、を見ることによつて講義がよりよく理解できた。 | 診断、治療の最新の機器を私の病院ももつ必要があるし、病院の管理システムも改善したい。 | 今後もコミュニケーションを保つて下さい。 |
| 14) Mr. Thaval Poblap タイ | 今までタイで行っていたコースの中では見られなかった設備、手順など見学できてとても有用であった。 いろいろな病院を見学したことは日本の地域での医療がどうなっているか知ることができ今後わが国での医療をどうするかを考える上で役立った。 | 日本の一般的な保健医療を知る機会が欲しかった。 研修員と講師や施設の管理職の人たちとのコミュニケーションが難しいことがあった。コーディネーターがすべて解決できるというわけにはいかない。 トピックがタイで学んだことと同じではなくて、もつと他の興味 | あと4カ月はこのコースが続き、その後は学んだことをこの分野の問題解決のために応用してゆきたい。 | なし |

| 氏 名 | 2-評価理由 | 3-改善点 | 4-A 将来の抱負 | 4-B JICAへの要望 |
|---|---|--|--|---|
| | | あるものに時間を割り当てるべきである。 | | |
| 15) Miss. Walai-Orn Prachyapruit タ イ | 病院訪問では沢山の 実験、設備、技術など を見れ、タイで習った ことを確認でき有用で あった。 又、病院のシステム についてもよく理解で きた。しかし回診は人 があまり多すぎる。私 たちに症例を見せるこ とが目的ならばもっと 小さなグループにわけ るべきである。 | 時間が短かすぎる。 外国人研修員は道を知 らないのだし、あちこ ち移動する場合もっと 無難にスケジュールをた てて欲しい。 大学や病院の間で講 義の topics について の調整があるべきだと思 う。 | 学んだいくつかの調 査研究はお金がかかり すぎたり、また我が国 には必要のないものも あるので多少やり方を かえて学んだことを応 用したい。 | JICAは私たちに充 分な期間をおいて情報 を与えるべきだ。 ☆スケジュールも、旅行 手当も手渡されたの は出発の一日前 ☆日本ではどう振るま うべきか、どう人々 とコミュニケーション すべきか何も知らされ なかった。 |
| 16) Mr. Chatchaval Sirinirundr タ イ | 日大-トピックがよ かった 名古屋市立大-最新 設備の病院 順天堂大学-よいト ピック 浦安病院-近代的病 院 | 適当なプログラムだ った。 | 記載なし | 記載なし |
| 17) Mrs. Sirirat Suwantaroj タ イ | 名古屋市立大-トピ ック、方法はよかった が人が多すぎた。もっ と小さなグループにわ けて欲しい。病院の回 診などもただ混雑して 患者に迷惑をかけるば かりだから症例を見せ るのが目的で、小さい グループわけが不可能 だったら講義室でスラ イドを見せた方がよい。 | 期間は適当だったし、 日本を訪問する機会を 与えてくれて感謝して いる。もし来年以降も このプログラムが継続 するならもっと詳しい スケジュールや交通事情 など、少なくとも出発 の一週間前には知らせ て欲しい。一日前に知 らされたのでは何の準 備もできなかった。 | いくつかの方法はわ が国でも応用できるだ ろう。珍しい症例を口 本で見ることができ、 よい経験を積むことが できた。 | 来年もこのコースが 続くなら日本旅行は必 ずいれて下さい。 我々の国の力ではなか なか手に入れられない 設備の設置にJICA の援助を頂きたい。 |
| 18) Mr. Bunchai Tang saghasaksri | A) 日大 よい症例を 見せてくれた。皮膚 外科の講義は大変よ かった。 B) 名古屋市大 こ ともよい症例及び医療 機器をみせてくれて よかった。 C) 京都 たくさん観 光した | ・研修プログラムは大 変よかった。 ・新しい機械がたくさん 見れた。 ・観光の時間があった。 | 皮膚病学の新しい概 念を理解できたので帰 国したら活用したい。 | JICAはこのようなコ ースを毎年行って欲し いし、皮膚病学の継続 コース(一年位の)も 作って欲しい。私自身 も他の研修プログラム で日本に又来たい。 |

| 氏 名 | 2-評価理由 | 3-改善点 | 4-A 将来の抱負 | 4-B JICAへの要望 |
|--|---|------------------------------|---------------------------|--------------|
| | D) 順天堂 私達がたいへん疲れているのを知ってスケジュールを緩めてくれるなど親切だった。 | | | |
| 19) Mr. Nivat Thiengtham タイ | 記載なし | とても人が多くて何も聞えず、従って何も理解できなかった。 | 仮定をたて実験ををするといった方法を取り入れたい。 | 記載なし |
| 20) Mr. Seree Parntong タイ 同行者 | JICAはハンドブックや詳細を充分に与えてくれた。 | 記載なし | 同 左 | 同 左 |
| 21) Mr. Harn Wongwaisayawan タイ 同行者 | 提出なし (この final report は、研修員用に説問ができていて自分のようにコーディネーターとして来たものには答えようがないとのコメントあり) | | | |

研修監理報告書

作成日 : 昭和63年9月9日

研修監理員名 柳川 美智子

(担当者名 管理課 岩谷)

| | | | | | |
|---|--|------------------|------------|---------------|--------------------|
| 1. 区 分 | 集 団(一般・日) 個 別(単発・カウンターパート・国際機関) | | | | |
| 2. (集団)コース番号, (個別) | コース名 | 第三国研修 | | | |
| | 研修科目 | タイ 皮膚病学 | | | |
| 3. 待 遇 | 一 般 準高級 高級 | | | | |
| 4. 関係省庁・受入機関 | JICA管理課 | | | | |
| 5. 主 な 研 修 先 | 日大, 順天堂大学他 | | | | |
| 6. 研 修 期 間 | 63年8月22日から 63年9月4日まで | | | | |
| 7. 配 置 期 期 | 63年8月 9日から 63年9月9日まで | | | | |
| 8. 研修員氏名※ 及び員数 (多数の場合は別添) | Mr. Harn Wongwaisayawan (タイ 国他 20名)※監理対象研修員 | | | | |
| 9. 研 修 日 程 | (別 添) | | | | |
| 10. 研 修 監 理 業 務 | | | | | |
| (1) 講義実習等 ※半日を1単位, 討論・演習を含む英語以外の外国語の場合はその旨記す。 | | | | | |
| 講義総数※(A) | 講師による英語講義(B) | $B/A \times 100$ | 実習時間総数(A') | 講師による英語実習(B') | $B'/A' \times 100$ |
| 14 | 13 | 93 % | 0 | 0 | 0 % |
| (2) コメント | | | | | |
| イ 研修面 (1. 研修員の出欠状況 2. 研修計画 3. 研修員の理解度 4. 研修先の受入態勢 (講師, 施設設備等) 5. 使用教材の有効度 等具体的に記述する。) | | | | | |
| 1. タイ側のコーディネーターの一人である Dr. Harn が最終日病気で欠席。閉講式にも出られなかった。ハードスケジュールと20人を率いている責任感から来る疲労ではないと思われる。 | | | | | |
| 2. 2週間の滞在にしては移動が多くプログラムも盛り沢山であった。それぞれの施設では綿密に計画をたてて迎えてくれたが, 施設見学はとにかく人数が多すぎ, 特に病棟回診などは半数以上の人が何も聞こえずといったこともあった。2班にわけて見学させてくれたところもあったが, それでも多すぎた。又, 大勢の人を率いての電車, 路線バスでの移動はことのほか大変だった。 | | | | | |
| 3. グループ全体としては消極的な感じで質問もあまりなく, どの程度理解しているのかつかみかねたが, Final Report から見る限り, タイでは器械や設備がたりなかったりで講義されても納得できなかったことを実際デモンストレーションしてもらったことでよく理解できるようになったと評価は高かった。 | | | | | |
| 4. 応対してくれた大学の医師, 講師, 施設のスタッフの方々は文字通り親身になって細々と気を配って下さり, 又, 著名な人々が最新の設備を駆使して講義してくれたと研修者もたいへん感謝していたようです。 | | | | | |
| ロ 生活面 (1. 健康状態 2. 日常生活態度 3. 宿舍・食事情等) | | | | | |
| 1. リーダーの Dr. Harn が1日欠席した以外は皆元気だった。 | | | | | |
| 2. タイグループとそれ以外の人ではっきり別れてしまっていて少し気になった。タイの人たちは仲間も多く放つておいても買物と観光にとび回っていましたが, その他の人たちはガイドがいないと何もしようとせず, たった一日のフリーの日さえも余しているようだった。 | | | | | |
| 3. 東京のホテルは狭いが, 日本の土地事情を考えるとしかたがないと納得しているようで, 不満はなかった。日本の物価の高さについては前もって言われていたらしくかんづめなど食品をタイから持ちこんで, しのいでいた人も大部いたようである。 | | | | | |
| 11. 添 付 資 料 | | | | | |
| (1) 研修員寸評 (研修態度, 英語・日本語等語学力など研修員リストに記入) (2) 研修日程表 (実施済のもの) | | | | | |
| (3) 使用テキストリスト (4) 評価会の要旨 (5) ファイナルレポートの要約 (エバリュエーション・シート添付) | | | | | |

評価会の要旨

1. 期間が短かすぎる。
2. 新しい設備、機械を見ることができ大変有益だった。タイで講義をうけたことを確認できた。(Dr. Sirirat タイ 他)
3. 見学の時、特に病院の回診の時など人が多すぎ、よく見ることが出来なかった。
(Dr. Walai-Orn タイ 他)
4. 名古屋で受けた蛍光免疫体の話は有益だった。
(Dr. Poklap タイ 他)
5. 移動の際はバスなどを供して欲しい。
(Dr. Newaz バングラデシュ 他)
6. 来日前に日本でのスケジュール、生活などについてブリーフィングして欲しかった。
(Dr. Mohammed パキスタン 他)
7. いくつかの病院で同じような機材を見る必要はなかったと思う。
(Dr. Mohammed パキスタン)
8. 日大、順天堂大での講義はもっと時間をかけてして欲しかった。
(Dr. Lardar バングラデッシュ)
9. スケジュールはそれほどきつくなかった。
(Dr. Bunchai タイ)
10. ホテルの部屋は狭すぎる。
(Dr. Tiotam P・N・G)
11. 日本の技術は大変進んでいる。将来は電子顕微鏡について学びたい。
(Dr. Tiotam P・N・G)

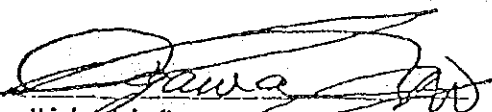
MINUTES OF MEETINGS
BETWEEN THE
JAPANESE EVALUATION TEAM
AND
THE INSTITUTE OF DERMATOLOGY OF THAILAND
ON THE THIRD COUNTRY TRAINING PROGRAMME

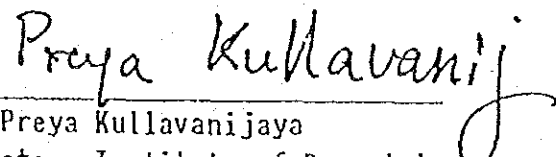
The Japanese Evaluation Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Dr. Hideoki Ogawa visited the Kingdom of Thailand from October 30 to November 5, 1988 for the purpose of evaluating the training courses in the field of dermatology at the Institute of Dermatology in Thailand under the Third Country Training Programme of JICA.

During the stay in Thailand, the Team had a series of meetings with the Institute of Dermatology with respect to the progress and achievement of the above-mentioned training course (hereinafter referred to as "the Course"), and the outline is summarised in the summary report attached as APPENDIX I.

As a result of the meetings, both parties shared the view that the Course is greatly contributing to the development of dermatology in the Asian and Pacific countries, agreed to recommend to their respective Government to continue the Course for the next five years in response to the potential needs in this region, and worked out the Record of Discussions attached as ANNEX IV, which should be completed in order to ensure the successful implementation of the Course.

Bangkok, November 4, 1988


Dr. Hideoki Ogawa
Leader of the Japanese
Evaluation Team, JICA


Dr. Preya Kullavanijaya
Director, Institute of Dermatology

SUMMARY REPORT

I. BACKGROUND

1. Statistics revealed that skin diseases in Thailand accounted for about 30 percents of all diseases. For the whole country skin problem is on the forth rank. The population of Thailand is now about 54 millions and about 6 millions in Bangkok. Therefore, in Thailand, one dermatologist has to be responsible for the population of about 400,000. These situations create the problems of (1) lack of well trained medical personnel in dermatology, (2) inadequate coverage of rural dermatological services and (3) skin disease patients struggle to find proper treatments in Bangkok and this would lead to the economical problem of the country.

These problems are not only confronted with the dermatological services in Thailand, but also with other developing countries in the world. Therefore the Institute of Dermatology has cooperated with DTEC and JICA for the accomplishment to solve these major health problems in Asian developing countries and also in Thailand.

2. The Course has been conducted for the past five years since its inception upon once-a-year basis by the Institute of Dermatology and supported jointly the Governments of Japan and Thailand under its technical cooperation scheme.
3. The purpose of the Course is to provide knowledge and technique necessary for the research, diagnosis and treatment of skin diseases to dermatologists from the Asian and Oceanian countries, and thus contribute to the development of dermatology in this regions.
4. The duration of the Course was ten months in each year. In the past five years, forty five (45) participants from eleven different countries, those are Bangladesh, Bhutan, China, India, Indonesia, Maldives, Nepal, Pakistan, Philippines, Papua New Guinea and Sri Lanka, and thirty five (35) participants from Thailand were accepted to the Course yearly. The total number is eighty four (84). (see Annex I)

II. JICA'S COOPERATION

For the Course, the Japanese Government has sent forty(40) short-term experts, provided equipments, accepted five (5) Thai counterpart personnels for training in Japan, and furnished with the fund necessary for the invitation of participants from the invited countries and the expenditure for operating the Course. The total cost sums up to seventy six million yen. (see ANNEX II)

III. THE ASSESSMENT TO THE ACHIEVEMENT

The questionnaires for the Course were sent by the Institute of Dermatology to all the ex-participants and were returned from forty nine (49) ex-participants, that is, fifty eight (58) percent of all the ex-participants. The responses provided are of great value both to Japan and to the Kingdom of Thailand in globally evaluating the Course with a view to improving the kind of cooperation under the third country Training Programme that will be organized in future. Mentioned hereafter are the results of the analysis of the questionnaires submitted by the ex-participants, the final reports annually prepared by the Institute of Dermatology and interview with participants of this year's Course.

1. OBJECTIVES

The majority of the participants commented that the major objectives of the course were adequately fulfilled. Achievement of major objectives and fulfillment of their expectation of the Course was satisfactory since all the participants answered " favourably "

2. CURRICULAM DESIGN

The majority of the participants expressed that the coverage of the subjects and the levels were appropriate and that the time allocation for lectures was adequate. They said conference and observation tours were also appropriate and useful.

3. TEACHING AND INSTRUCTION METHODS

Most participants commented that the teaching and instruction methods were satisfactory.

4. ADMINISTRATION AND MANAGEMENT

Regarding the administration and coordination of the course, pre-information, allowance, observation tours, accommodation arrangements, transportation etc., participants described that the arrangements were satisfactory and adequate.

5. EVALUATION OF THE TRAINING

Most participants replied that the knowledge and technique necessary for the research, diagnosis and treatment of skin diseases, in general, are helpful and applicable to the participants' present duties in their home countries. Many participants have made much use of the technique for investigation and transferred them to their institutions. It is indicated, on the other hand, that some techniques are not applicable at present in a few countries. However, they said that it is definitely possible to apply the technique and knowledge in the near future.

6. CONCLUSION

It can be stated that the participants were very satisfied with the curriculum, arrangement and administration of the Course and that the Course is very useful. Therefore, it may be concluded that the Course was successful in the past five years.

IV. FUTURE PLAN AND RECOMMENDATION

The Thai side expressed its intention to continue the Course and requested future Japanese cooperation in this regard. The team studies the Thai proposal and had a series of meetings with the Thai side. Taking into consideration the needs and the achievement of the Course, and on the basis of the result of this evaluation, both parties shared the view that the Course should be held in the next five years in order to contribute to the development of dermatology in the Asian and Oceanian countries. Both parties recommended, in implementation of the Course in the next phase, that the R/D amended should be signed with both sides, and that annual study of the Course curriculum will be made to respond to the needs in the field of dermatology in the regions.

- ANNEX I : MEMBER OF PARTICIPANTS ACCEPTED TO THE COURSE
- ANNEX II : JICA'S COOPERATION
- ANNEX III : LIST OF ATTENDANTS
- ANNEX IV : THE DRAFT OF RECORD OF DISCUSSIONS

ANNEX I

NUMBER OF PARTICIPANTS ACCEPTED TO THE COURSE

| | 1983 | 1984 | 1985 | 1986 | 1987 | 1988 | Total |
|---------------|------|------|------|------|------|------|-------|
| Bangladesh | 2 | 1 | - | 1 | | 3 | 7 |
| Bhutan | | 1 | - | | | | 1 |
| China | 1 | 2 | - | 3 | 2 | 4 | 12 |
| India | | 2 | - | | | | 2 |
| Indonesia | 1 | | - | 1 | 3 | 1 | 6 |
| Maldives | | | - | | 1 | | 1 |
| Nepal | 1 | 1 | - | 1 | 1 | 1 | 5 |
| Pakistan | 1 | | - | | | 1 | 2 |
| Philippines | 1 | 1 | - | 1 | 2 | 1 | 6 |
| P.N.G. | | | - | | | 1 | 1 |
| Sri Lanka | | 1 | - | 1 | 2 | * 2 | 6 |
| Sub total (1) | 7 | 9 | - | 8 | 11 | 14 | 49 |
| Thailand(2) | 7 | 8 | - | 7 | 6 | 7 | 35 |
| Total (1)+(2) | 14 | 17 | - | 15 | 17 | 21 | 84 |

(Remark 1) Two participants from Nepal in the 5th Course returned to Nepal before completion of the Course for their sick.

(Remark 2) The year in this table is Japanese fiscal year (Apr./ Mar.)

(Remark 3) The duration of each Course :

1st Mar. 26, 1984 - Jan. 25, 1985
 2nd Mar. 25, 1985 - Jan. 24, 1986
 3rd Apr. 7, 1986 - Feb. 5, 1987
 4th Apr. 8, 1987 - Feb. 5, 1988
 5th Apr. 4, 1988 - Feb. 3, 1989

JICA'S COOPERATION

(1) THE NUMBER OF JAPANESE EXPERTS AND THAI COUNTERPART PERSONNEL ACCEPTED TO JAPAN

| Japanese FY | 1983 | 1984 | 1985 | 1986 | 1987 | 1988 | Total |
|---------------------------------------|------|------|------|------|------|------|-------|
| Japanese Experts | 8 | 8 | - | 8 | 8 | 8 | 40 |
| Training of Thai Counterpart in Japan | 1 | 1 | - | 2 | | 1 | 5 |

(2) EXPENDITURE FOR THE OPERATIONAL COST AND PROVISION OF EQUIPMENT AND MATERIALS

(Thousand of Yen)

| | 1983 | 1984 | 1985 | 1986 | 1987 | 1988 | Total |
|------------------------|--------|-------|------|-------|--------|-------|--------|
| Operational Cost | 11,325 | 5,930 | 388 | 8,037 | 5,902 | 7,204 | 38,786 |
| Equipment and Material | | | | | 37,434 | | 37,434 |

(Remark) Expenditure for the expert's services and acceptance of Thailand personnel is not included in the above Total.

LIST OF ATTENDANTSJAPANESE SIDE

1. Evaluation Team

Dr. Hideioki Ogawa
 Professor and Chairman
 Department of Dermatology
 Juntendo University School
 of Medicine

Dr. Hiroyuki Suzuki
 Associate Professor
 Department of Dermatology
 Nihon University School
 of Medicine

Mr. Yutaka Iwatani
 Staff
 Administration Division
 Training Affairs Department
 JICA

2. Embassy of Japan

Mr. Masatumi Iwano

3. JICA Thailand Office

Mr. Shinya Iwayanagi

THAI SIDE

1. Institute of Dermatology

Dr. Preya Kullavanijaya
 Director
 Institute of Dermatology

Dr. Pimonpan Gritiyarangsarn
 Medical Officer
 Institute of Dermatology

Dr. Harn Wongwaisayawan
 Medical Officer
 Institute of Dermatology

Mr. Vichiea Tanvannarak
 Administrative Officer
 Institute of Dermatology

(DRAFT)
 RECORD OF DISCUSSIONS BETWEEN
 THE RESIDENT REPRESENTATIVE OF JICA THAILAND OFFICE AND
 THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF THE KINGDOM OF THAILAND
 ON THE THIRD COUNTRY TRAINING PROGRAMME

The Japanese Evaluation Team organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Dr. Hideoki Ogawa had a series of discussions with the authorities concerned of the Government of the Kingdom of Thailand from October 30 to November 5, 1988 for the purpose of evaluating the training course in the field of Dermatology, and they also discussed about the future plan of the course.

Based on the above discussions, the Resident Representative of JICA Thailand Office and the authorities concerned of the Government of the Kingdom of Thailand agreed to recommend to their respective Governments the matters referred to in the documents attached hereto.

Mr. Tsutomu Saito
 Representative of
 JICA Thailand Office

Dr. Suchint Phalakornkule
 Director-General
 Department of Medical Services
 Ministry of Public Health

Mr. Wanchai Sirirattna
 Director-General
 Department of Technical and
 Economic Cooperation

ATTACHED DOCUMENT

The Government of Japan and the Government of The Kingdom of Thailand will cooperate with each other in organizing a training course in the field of Dermatology at the Institute of Dermatology, Department of Medical Services, (hereinafter referred to as "the Course") under the Third Country Training Programme of JICA.

The Government of Thailand will conduct the Course with the support of the technical cooperation scheme of the Government of Japan. The Course will be held once a year from the Japanese fiscal year of 1989 to 1993, subject to annual consultation of both Governments.

The Course will be operated in accordance with the followings:

1. TITLE

The Course will be entitled "Diploma Course in Dermatology".

2. PURPOSE

The Course is designed to provide knowledge and technique necessary for the research and diagnosis of skin diseases to junior dermatologists from the Asian and Oceanian countries, and thus contribute to the development of dermatology in this region.

3. OBJECTIVES

At the end of the Course, the participants are expected to be able to :

- (1) be familiar with common skin diseases and to know how to explore the problems, diagnostic approaches and management,
- (2) execute the study of dermatology by themselves in respective countries, and
- (3) retain good relationship among doctors from Asian and Pacific countries.

4. DURATION

The each Course will be held for ten(10) month duration.

5. CURRICULUM

The tentative curriculum of the Course is attached as ANNEX I.

6. INVITED COUNTRIES

The Governments of the following countries will be invited to apply for the Course by nominating their applicant(s):

Bangladesh, Bhutan, Brunei, Burma, China, Fiji, India, Indonesia, Korea, Malaysia, Maldives, Nepal, Pakistan, Philippines, Papua New Guinea, Sri Lanka and Singapore.

7. NUMBER OF PARTICIPANTS

The number of participants from the invited countries shall not exceed fourteen(14) in total. And the number of participants from Thailand shall not exceed seven (7).

8. QUALIFICATIONS FOR APPLICANTS

Applicants for the Course are:

8-1 To be nominated by their respective Governments in accordance with the procedure mentioned in 10-1 below,

8-2 To have completed the degree in medical doctor,

8-3 To have at least one(1) year of working experience in the field of dermatology and preferably in the government organizations,

8-4 To be under forty five(45) years of age in principle,

8-5 To have a good command of spoken and written English, and

8-6 To be in good health, both physically and mentally, to complete the Course.

9. FACILITIES AND INSTITUTIONS

Institute of Dermatology, Department of Medical Services, Ministry of Public Health

10. PROCEDURE OF APPLICATION

- 10-1 The Government applying for the Course shall forward five (5) copies of the prescribed application form for each nominee to the Government of Thailand through its diplomatic channels not later than sixty (60) days before the commencement of the Course.
- 10-2 The Government of Thailand will inform the applying Governments through its diplomatic channels whether or not the applicant(s) is/are accepted to the Course not later than thirty (30) days before the commencement of the Course.

11. UNDERTAKING OF GOVERNMENT OF JAPAN AND GOVERNMENT OF THAILAND

In organizing and implementing the Course, both Governments will take the following measures in accordance with the relevant laws and regulations in force in each country. The schedule of the course operation for the first year is attached as ANNEX II.

11-1. The Government of the Kingdom of Thailand

11-1-1 Department of Technical and Economic Cooperation (DTEC)

- (1) To forward the General Information brochures (G.I.) to the Governments of the invited countries through its diplomatic channels,
- (2) To receive application forms and forward them to the Institute of Dermatology,
- (3) To notify the result of the selection of participants to the respective Government through its diplomatic channels and to the JICA Thailand Office (hereinafter referred to as "the JICA Office"),
- (4) To arrange accommodations for participants,
- (5) To arrange international air tickets for participants from the invited countries and to meet and see them off at the airport,

- (6) To bear the following expenses for the Course
 - a) Fifty percent(50%) of the expenses incurred of international economy-class flight fare, accommodation, per-diem for the participants from the invited countries, printing and communication.
 - b) Twenty percent(20%) of the expenses for the study tours, textbooks and teaching materials.
 - c) Necessary expenses for implementing the Course that are not financed by the Government of Japan.
- (7) To submit a statement of expenditures to the JICA Office.

11-1-2 Institute of Dermatology

- (1) To formulate the curriculum based on ANNEX I,
- (2) To draft and print the G.I.,
- (3) To assign an adequate number of its staff as lecturers/instructors for the Course,
- (4) To provide its training facilities and equipment for the Course,
- (5) To select participants for the Course, and to inform the result of the selection to DTEC,
- (6) To arrange domestic study tour(s) to be included in the Course,
- (7) To issue certificates to the participants who successfully completed the Course,
- (8) To submit a course report to the JICA Office within thirty(30) days after the termination of the Course, and
- (9) To coordinate any matter related to the Course.

11-2. The Government of Japan

- (1) To dispatch short-term experts, following the regular procedures of its technical cooperation scheme, who will give advice to the Institute of Dermatology and deliver lectures on such subjects as mentioned in ANNEX I,
- (2) To bear the following expenses through JICA.
 - a) Fifty percent(50%) of the expenses incurred of international economy-class flight fare, accommodation, per-diem for the participants from outside of the Kingdom of Thailand, printing and communication.
 - b) Eighty percent(80%) of the expenses for the study tours, textbooks and teaching materials.
 - c) Medical insurance premiums, honoraria for external lecturers.

12. PROCEDURE OF REMITTANCE AND EXPENDITURE

The remittance and expenditure of the funds for the expenses to be borne by JICA will be arranged in accordance with the following procedure:

- 12-1 DTEC will submit to the JICA Office a bill of estimate for the expenses to be borne by JICA not later than sixty (60) days before the commencement of the Course.
 - 12-2 JICA will assess the bill of estimate and provide the assessed amount of expenses for DTEC within thirty(30) days after the receipt of the bill of estimate. (Payment of assessed amount will be done after the number of participants is informed.)
 - 12-3 DTEC will submit to the JICA Office a statement of expenditures within thirty(30) days after the termination of the Course.
 - 12-4 In case any amount of the fund provided by JICA remains unspent, DTEC will reimburse the unspent amount to JICA in accordance with the instructions given by JICA. The fund allocated for the flight fare, accommodation, per-diem and medical insurance premiums shall not be appropriated for any other purposes.
 - 12-5 By the request of JICA, DTEC will make available for JICA's reference all the receipts and other documentary evidence necessary to certify the expenditures stated in 12-3 above.
13. This Attached Document and the following Annexes attached hereto shall be deemed to be a part of the Record of Discussions:

ANNEX I : Tentative Curriculum of the Course

ANNEX II : Schedule of the Course Operation (for the Japanese FY 1989)

ANNEX I

TENTATIVE CURRICULUM OF THE COURSE (IN THE JAPANESE FY 1989)

1. Lectures

- 1.1 Introduction to dermatology
- 1.2 Bacteriology
- 1.3 Clinical research
- 1.4 Cosmetic dermatology
- 1.5 Connective tissue diseases
- 1.6 Disease of hair
- 1.7 Disease of nail
- 1.8 Dermatitis and eczema
- 1.9 Erythema group
- 1.10 Geriatric dermatology
- 1.11 Genetics
- 1.12 Genodermatoses
- 1.13 Histopathology & electron microscopy
- 1.14 Immunology
- 1.15 Leprosy
- 1.16 Mycology
- 1.17 Parasitology & Arthropods
- 1.18 Pharmacology
- 1.19 Papulosquamous eruption
- 1.20 Pigmentary disorders
- 1.21 Pediatric dermatology
- 1.22 Photobiology
- 1.23 Skin signs in systemic diseases
- 1.24 Tumors
- 1.25 Virology
- 1.26 Venereal diseases
- 1.27 Vesiculobullous eruption

2. Clinical dermatology

- 2.1 Clinical demonstration
- 2.2 O.P.D.
- 2.3 I.P.D. and Ward round
- 2.4 Symposium
- 2.5 Clinico-pathological conference
- 2.6 Journal club
- 2.7 Subspeciality clinics
 - 2.7.1 Immunology clinic
 - 2.7.2 Contact clinic
 - 2.7.3 Mycology clinic
 - 2.7.4 Leprosy clinic
 - 2.7.5 Photobiology clinic

3. Field trip

- 3.1 Nakhon Ratchasima province
- 3.2 Chiang Mai and Khon Kaen provinces
- 3.3 Japan (If it is agreed upon)

4. Subspecialties

- 4.1 Mycology
- 4.2 Dermatopathology
- 4.3 Immunology
- 4.4 Clinical research
- 4.5 Photobiology

ANNEX II

SCHEDULE OF THE COURSE OPERATION (FOR THE JAPANESE FY 1989)

| MONTH | THAI SIDE | JAPANESE SIDE |
|-----------|---|--|
| Nov. 1988 | 1. Signing of Record of Discussions 2. Distribution of G.I. and Application Form | 1. Signing of Record of Discussions |
| Dec. 1988 | 1. Submission of Form A-1 | |
| Jan. 1989 | | 1. Recruitment of Experts |
| Feb. | 1. Submission of Bill of Estimate 2. Selection of the Participants | |
| Mar. 1989 | 1. Notification of the Selection of the Participants | 1. Remittance of Expenses 2. Submission of Form B-1 |
| May. 1989 | 1. Implementation of the Course | 1. Dispatch of Experts |
| Mar. 1990 | 1. Submission of Statement of Expenditures 2. Submission of Course Report | |

DIPLOMA COURSE

IN

DERMATOLOGY

May 1, 1989 - February 23, 1990

The Diploma Course in Dermatology will be conducted jointly by the Royal Thai Government and the Government of Japan as part of its Technical Cooperation Programme.

The Course arrangements are made by the Department of Technical and Economic Cooperation (DTEC) and the Japan International Cooperation Agency (JICA) in collaboration with the Institute of Dermatology, Department of Medical Services and the related organization in Thailand and Japan.

PURPOSE

The course is designed to:

- (1) enable junior dermatologists to be familiar with common skin diseases; to know how to explore the problems, diagnostic approaches and management;
- (2) initiate the development of proper methods of study of skin diseases;
- (3) furnish training in basic sciences and clinical dermatology to physicians who propose to follow fulltime career in dermatology;
- (4) provide an atmosphere emphasising the acquisition of useful scientific knowledge and its application and to provide an impetus research and scholarship and nature of the entire learning process;

- (5) retain good relationship among doctors from Asian and the Pacific countries.

QUALIFICATIONS

Applicants should:

- (1) be nominated by their governments in accordance with the Procedures for Application;
- (2) have completed the degree in medical doctor;
- (3) have at least one (1) year working experience in the field of dermatology;
- (4) have sufficient command of spoken and written English. In case English is not their countries' official language, the English Certificates of candidates should also be submitted for consideration;
- (5) be under forty-five (45) years of age;
- (6) have appropriate physical fitness and should not be pregnant.
- (7) each participant should have a health certificate provided by the authorized physician. This form is also attached to the Application Form.

DURATION

10 (ten) months from May 1, 1989 - February 23, 1990

LANGUAGE

The course will be conducted in English.

INSTITUTION

The course will be conducted by:

The Institute of Dermatology,
Department of Medical Services,
Ministry of Public Health, Bangkok,
THAILAND
Tel. 2461280 - 3

PROCEDURES FOR APPLICATION

- (1) A government desiring to nominate an applicant for the course should fill in and forward five (5) copies of the Nomination Form for each applicant to the Royal Thai Government through the Royal Thai Embassy or Consular Representative in their countries or send directly to the Thai Aid Sub-Division, Department of Technical and Economic Cooperation (DTEC), 962 Krung Kasem Road, Bangkok 10100, THAILAND, not later than January 31, 1989.
- (2) The Royal Thai Government, after consulting with the Government of Japan, will inform the applying government whether or not the nominees are acceptable in the course not later than February 28, 1989.

ALLOWANCE AND EXPENSES

The following allowance and expenses will be borne by the Royal Thai Government and the Government of Japan:

- (1) Economy class round trip air ticket to and from the international airport designated by DTEC and Bangkok will be issued to the approved participant ONE WAY TICKET will be sent to the participant in advance by the representative of the Thai Airways International, Airline Ltd., in the participant's country. A return air ticket will be issued to each participant prior to the course completion. Those who buy the air tickets by themselves should take their own FULL RESPONSIBILITY, the expense of which could not be reimbursed from the course management.
- (2) Living allowance at the rate of ฿ 9,000.- (approximately US\$ 340.-) per month will be paid to each participant upon his/her arrival to Bangkok. This living allowance is to cover board and lodging, local transportation and other personal daily expenses. However, each participant is suggested to have a pocket money for a few days expenses prior to the allowance payment.
- (3) In accordance with relevant regulations. Free medical treatment will be provided for participants who become ill during their stay in Thailand.
- (4) Transportation for observation tour in Thailand (outside Bangkok) will be provided by the Government of Thailand and the Government of Japan.

FACILITIES PROVIDED

The following facilities will be provided by the Royal

Thai Government through the Department of Technical and Economic Cooperation:-

- (1) Arrangement for the training programme;
- (2) Tax clearance including the arrangement for the extension of the permit to stay in Thailand;
- (3) Orientations (Briefing upon arrival);
- (4) Accommodation reservation and arrangement.

DIPLOMA

Diploma in Dermatology from the Institute of Dermatology is approved by the Ministry of University Affairs of Thailand. Participants who have achieved sufficient amount of academic attendance and successfully pass the examination will be awarded the Diploma in Dermatology.

OTHER INFORMATION

- (1) Participants are required to arrive in Thailand on the date as designated by the DTEC after its confirmation of acceptance. However, it will be finally confirmed through the air ticket sent to the participants. (See also Allowance & Expenses item 1)
- (2) Participants should assume responsibility for other expenses occurred during travel between the participants' home countries and Thailand.
- (3) Participants shall make their own arrangements for any financial matters of private nature not provided for by the DTEC.

- (4) Upon arrival at Bangkok International airport participants will be met by a representative of the DTEC. If not, each participant must take the AIRPORT JOINING BUS (Not a taxi/Limousine) at the airport to the reserved hotel (The Royal Hotel, Ratchadamnoen Ave. Tel. 2229111-9) The payment for BUS service could be reimbursed afterwards.
- PARTICIPANTS WHO DO NOT FOLLOW THIS SUGGESTION SHOULD TAKE THEIR OWN RESPONSIBILITY. Necessary care of the participants, thereafter, will be taken by DTEC and the Institute of Dermatology throughout the course duration.
- (5) Participants are required to observe strictly the course schedule.
- (6) Application to change or alter the training subject or to extend the training period will not be accepted.
- (7) Participants are requested not to bring any member of their families. The living allowance paid by the Royal Thai Government and the Government of Japan is sufficient only to cover normal living expenses for one person. No allowance of any kind will be paid for their dependants.
- (8) For administrative uses, participants are requested to bring four (4) copies of their photograph attached to their Application Forms.
- (9) The Royal Thai Government and the Government of Japan will not be indemnified or liable for accident, disability and loss of life resulting from participation in the programme.

- (10) Further relevant information is available at the following address:-

Thai Aid Sub-Division

Department of Technical and Economic Cooperation (DTEC)

962 Krung Kasem Road, Bangkok 10100

THAILAND

Tel. (02) 2810552, 2821188

Cable add., : "DEPTECO, THAILAND"

- (11) SPECIAL ATTENTION FOR VISAS PROCEDURES:-

(a) Prior to arrival to Thailand, all participants must first obtain the appropriate visas from the Royal Thai Embassy or Consular Representative in countries;

(b) Those, who are from countries where the Royal Thai Embassy or Consulate is not available, can apply "THE VISA ON ARRIVAL" at Bangkok International Airport upon their arrival. The advance payment for application fee for "THE VISA ON ARRIVAL" is Baht 300.- which will be reimbursed afterwards.

- (12) Participants are requested to confirm the flight details and date of arrival in Bangkok to DTEC at least 3 days before the course commencement.

- (13) Working permit is prohibited for all participants during their stays in Thailand.

TENTATIVE PROGRAMME

1. Lectures
 - 1.1 Introduction to dermatology
 - 1.2 Bacteriology
 - 1.3 Clinical research
 - 1.4 Cosmetic dermatology
 - 1.5 Connective tissue diseases
 - 1.6 Disease of hair
 - 1.7 Disease of nails
 - 1.8 Dermatitis and eczema
 - 1.9 Erythema group
 - 1.10 Geriatric dermatology
 - 1.11 Genetics
 - 1.12 Genodermatosis
 - 1.13 Histopathology & electron microscope
 - 1.14 Immunology
 - 1.15 Leprosy
 - 1.16 Mycology
 - 1.17 Parasitology & Arthropods
 - 1.18 Pharmacology
 - 1.19 Papulosquamous eruption
 - 1.20 Pigmentation
 - 1.21 Pediatric dermatology
 - 1.22 Photobiology
 - 1.23 Skin signs in systemic disease

- 1.24 Tumors
- 1.25 Virology
- 1.26 Venereal diseases
- 1.27 Vesiculobullous eruption
- 2. Clinical dermatology
 - 2.1 Clinical demonstration
 - 2.2 O.P.D.
 - 2.3 I.P.D. and Ward round
 - 2.4 Symposium
 - 2.5 Clinico pathological conference
 - 2.6 Journal club
 - 2.7 Subspecialty clinics
 - 2.7.1 Immunology clinic
 - 2.7.2 Contact clinic
 - 2.7.3 Mycology clinic
 - 2.7.4 Leprosy clinic
 - 2.7.5 Photobiology clinic
- 3. Field trip
 - 3.1 Nakhon Ratchasima province
 - 3.2 Chiang Mai province
 - 3.3 Japan (If it is agreed upon)
- 4. Subspecialties
 - 4.1 Mycology
 - 4.2 Dermatopathology
 - 4.3 Immunology
 - 4.4 Clinical study
 - 4.5 Photobiology

THAI LECTURES

1. Renoo Kotrajaras, M.D., D.T.M. & H. (Liverpool)
Dip. The Thai Board of Dermatology (Medical council)
Cert. in Medical Mycology, C.D.C. Department of
Health, Education & Welfare, Atlanta, Georgia,
U.S.A.
Cert. in Planning for Health and Cert. in Quantitative
Methods in Health Practice Research, (Johns
Hopkins' University Md. U.S.A.)
Honorable adviser
Institute of Dermatology
2. Preya Kullavanijaya, M.D., FRCP (Thailand)
Dip. in Dermatology (St. John's Institute of Dermatology,
University of London)
Dip. The Thai Board of Dermatology (Thai Medical Council)
Director, Institute of Dermatology
3. Thada Piamphongsant, M.D.
Dip. American Board of Dermatology and Dermatopathology
Cert. in Allergy and Clinical Immunology (Washington D.C.)
Dip. The Thai Board of Dermatology (Thai Medical Council)
Institute of Dermatology
4. Yaovares Nakjang, M.D.
Dip. The Thai Board of Dermatology (Thai Medical Council)
Cert. in Dermatopathology (Mayo Graduate School of Medicine,
University of Minnesota, U.S.A.)
Institute of Dermatology

5. Pimonpun Gritiyarangsarn, M.D.
 Dip. in Dermatology (St. John's Institute of Dermatology,
 University of London)
 Dip. The Thai Board of Dermatology (Thai Medical Council)
 Institute of Dermatology
6. Yaowalak Harntanyapong, M.D.
 Dip. The Thai Board of General Practitioner
 Dip. The Thai Board of Dermatology (Thai Medical Council)
 Priests' Hospital
7. Harn Wongwaisayawan, M.D.
 Dip. The Thai Board of Dermatology (Thai Medical Council)
 Institute of Dermatology
8. Piti Palangwachira, M.D.
 Dip. The Thai Board of Dermatology (Thai Medical Council)
 Institute of Dermatology
9. Krisada Daungurai, M.D.
 Dip. The Thai Board of Dermatology (Thai Medical Council)
 Lieutenant Colonel, College of Medicine,
 Pramongkut Klao Hospital
10. Porntip Huiprasert, M.D.
 Dip. The Thai Board of Medicine (Thai Medical Council),
 Dip. The Thai Board of Dermatology (Thai Medical Council)
 Faculty of Medicine,
 Chulalongkorn University
11. Stitaya Sirisinha, B.S. (Hon), B.A. (Hon), D.M.D. (Hon),
 M.S.(Micro), Ph.D. (Micro)
 Professor, Faculty of Science, Mahidol University

12. Rampai Suksawasdi Na Ayudhya, M.S.P.H. (Bios.)
Associate Professor, Faculty of Public Health,
Mahidol University
13. Kanchana Panikabutra, M.D., M.P.H. (Johns Hopkins)
Bangrak Hospital
14. Apicharti Vichayanarat, M.D.
Dip. American Board of International Medicine,
Dip. Subspecialty Board of Endocrinology and Metabolism
Dip. The Thai Board of Internal Medicine (Thai Medical
Council)
Associate Professor, Faculty of Medicine, Siriraj
Hospital, Mahidol University
15. Somsak Lolekha, M.D. (Hon), Ph.D.
Cert. Biochemistry (Tulane University, New Orleans,
Louisiana, U.S.A.)
Ph.D. Microbiology & Immunology (University of Illinois,
U.S.A.)
Dip. American Board of Pediatrics
Dip. The Thai Board of Pediatrics (Thai Medical Council)
Professor, Faculty of Medicine, Ramathibodi Hospital,
Mahidol University
16. Chantapong Wasi, M.D.
Certificated Fellow in Virology
Associate Professor, Faculty of Medicine,
Siriraj Hospital Mahidol University

17. Chaisin Virawan, M.D., D.T.M. & H.
Dip. in Dermatology (London)
Dip. in Venereology (London)
Associate Professor, Faculty of Tropical Medicine,
Mahidol University
18. Teera Rammasoota, M.D., M.P.H., M.P.A.
M.P.H. in Epidemiology (Johns Hopkins University)
Fellow with Distinction in Dermal Pathology (Temple University)
Certificate with Honor in Leprosy (Johns Hopkins Leprosy
Research Centre)
Certificate in Immunology (All India Institute of Medical Science)
Member of W.H.O. Advisory
Expert Panel in Leprosy
Deputy Permanent Secretary for Public Health
Ministry of Public Health
19. Amorn Leelarasamee, B.Sc., M.D.,
Cert. Proficiency in Internal Medicine,
Cert. (Highest Hons) Infectious Diseases (U. of California)
M. Med. Sci (U. of Newcastle, Australia)
Research scholar awarded by China Medical Board
Associate Professor, Faculty of Medicine,
Siriraj Hospital, Mahidol University
20. Surapol Suwanagool, M.D.
Dip. American Board of Internal Medicine,
Sub-Board Infectious disease, Assistant Professor,
Faculty of Medicine, Siriraj Hospital,
Mahidol University

21. Surapon Kobwatanakun
Assistant Professor, Faculty of Medicine,
Siriraj Hospital
Mahidol University
22. Oraphan Matangkasombat, B.Sc. (Pharm.), Ph.D. (London U.)
Cert. in Quality Control (England)
Associate Professor, Faculty of Pharmacy,
Mahidol University
23. Pornchai Matangkasombat, D.M.D., Ph.D.
Professor and Chairman, Department of Microbiology
Faculty of Science, Mahidol University
24. Grace Warren, M.D. (Syd.) M.B., M.S., F.R.C.S., F.R.A.C.S.,
D.T.M. & H. (Syd).
Advisor in Leprosy and Reconstructive Surgery, The Leprosy
Mission
C/O Christian Hospital, Chainat
25. Prasop Nitidandhaprabhas, M.D.
Dip. American Board of Dermatology
Group Captain, Bhumibol Adulyadej Hospital
26. Prasert Sampoonnachot, B.Sc. (Med. Sci.), M.D., F.R.C.P. (T)
Cert. (Immunology), Kyoto University & Member of National
Institute for Leprosy Research, Tokyo.
Cert. (Research in Development of Communicable Diseases Control)
Raj Prachasamasai Institute
27. Nivat Chantarakul, M.D.
Professor, Faculty of Medicine, Siriraj Hospital
Mahidol University

28. Nikorn Dusitsin, M.D.,M.Sc.
Dip. American Board in Ob & Gyn.
Professor, Faculty of Medicine,
Chulalongkorn University
29. Prida Tasanapradit
Assistant Professor, Faculty of Medicine
Chulalongkorn University
30. Yupa Onthuan, B.S. (Statistics),M.S.(Statistics)
Cert. of Dermography (India)
Assistant Professor, Institute of Health Research
Chulalongkorn University
31. Chaivej Nuchprayoon, M.D. (Cum laude), M.S.,
Cert. of Proficiency in Chest Diseases,
Dip. The Thai Board of Medicine (Thai Medical Council)
Associate Professor of Medicine, Faculty of Medicine
Chulalongkorn University
32. Srichan Phornchirasilp, B.Sc. (Pharm.), Ph.D. (Ohio
State, U.S.A.)
Assistant Professor, Faculty of Pharmacy,
Mahidol University
33. Supriya Sirimachan, M.D.
Dip. The Thai Board of Dermatology (Thai Medical Council)
Fellowship in Dermatology (Birkshire Medical Centre,
Massachusetts and Medical University of South Carolina U.S.A.)
Group Captain, Bhumibol Adulyadej Hospital
34. Penwadee Timpatanapong, M.D.
Dip. American Board of Dermatology
Associate Professor, Faculty of Medicine,
Ramathibodi Hospital, Mahidol University

35. Noppadon Nopakun, M.D.

Dip. American Board of Dermatology
Assistant Professor, Division of Dermatology
Department of Medicine, Faculty of Medicine
Chulalongkorn Hospital Medical School

36. Wiwat Korkij, M.D.

Dip. Thai Board of Dermatology
Assistant Professor, Division of Dermatology
Department of Medicine, Faculty of Medicine
Chulalongkorn Hospital Medical School

37. Wannasri Sindhuphak, M.D.

Dip. Thai Board of Dermatology
Associate Professor; Division of Dermatology
Department of Medicine, Faculty of Medicine
Chulalongkorn Hospital Medical School

38. Krongkarn Dasananjali, M.D.

Dip. Thai Board of Medicine
Dip. in Dermatology (St. John's Institute of Dermatology,
University of London)
Bangkok Skin Clinic Leprosy Division
Department of Communicable Disease Control
Ministry of Public Health

39. Niwat Polnikorn, M.D.
Dip. Thai Board of Dermatology
Dip. in Venereology (Integate in skin laser)
University of London
Associate Professor.
Department of Medicine, Faculty of Medicine
Ramathibodi Hospital, Mahidol University
40. Punnakorn Inwidthaya, M.D., Dr. med.
Associate Professor in Microbiology
Siriraj Hospital, Mahidol University
41. Somwang Danchaivijitr, M.D., M.B. (Hons., Gold Medal), MRCP (UK), FRCP
Dip. The Thai Board of Internal Medicine
Associate Professor of Medicine
Faculty of Medicine, Siriraj Hospital
Mahidol University
42. Prasit Aswapokee, M.D.
Certificate in Infectious Diseases (Columbia U.) U.S.A.
Associate Professor
Department of Preventive Medicine
Siriraj Hospital, Mahidol University
43. Visanu Thamlikitkul, B.Sc., M.D. (Hons.)
Assistant Professor
Department of Medicine, Faculty of Medicine
Siriraj Hospital, Mahidol University

JAPANESE LECTURERS

1. Hideoki Ogawa, MD. Ph.D.
Technical Organizer in Chief (Japan side) Professor &
Chairman, Department of Dermatology, Juntendo University
School of Medicine (Tokyo)

2. Hiroyuki Suzuki, MD
Associate Professor, Department of Dermatology,
Nihon University School of Medicine (Tokyo)
3. Takeji Nishikawa, MD
Professor & Chairman, Department of Dermatology,
Keio University School of Medicine (Tokyo)
4. Kiyoshi Nishioka, MD
Associate Professor, Department of Dermatology
Kitasato University School of Medicine
(Isehara Sagamihara)
5. Atsushi Munakata, MD
Emeritus Professor, Nihon Medical University (Tokyo)
6. Kan Niizuma, MD
Associate Professor, Department of Dermatology
Tokai University School of Medicine (Isehara)
7. Akira Ohkawara, MD., Ph.D.
Professor & Chairman, Department of Dermatology,
Hokkaido University School of Medicine (Sapporo)
8. Nobuyuki Mizuno, MD
Professor & Chairman, Department of Dermatology,
Nagoya City University School of Medicine (Nagoya)
9. Yutaka Mishima, MD., Ph.D.
Professor & Chairman, Department of Dermatology,
Kobe University School of Medicine (Kobe)
10. Sadao Imamura, MD.
Professor & Chairman, Department of Dermatology,
Kyoto University School of Medicine (Kyoto)
11. Hachiro Tagami, MD
Professor & Chairman, Department of Dermatology
Tohoku University School of Medicine (Sendai)

12. Tamotsu Kanzaki, MD

Associate Professor, Department of Dermatology,
Nagoya City University School of Medicine (Nagoya)

13. Koichi Jimbow, MD.

Associate Professor, Department of Dermatology
Sapporo Medical University (Sapporo)

14. Masamitsu Ichihashi, MD.

Associate Professor, Department of Dermatology,
Kobe University (Kobe)

15. Yoshiharu Miki, MD

Professor & Chairman, Department of Dermatology
Ehime University (Ehime)

JICA